千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書

麦丸遺跡　j地点
雷遺跡　d地点
雷遺跡　e地点
雷遺跡　f地点
間見穴遺跡　c地点
浅間内遺跡　b地点
白筋遺跡　d地点
菅地ノ台遺跡　e地点
逆水遺跡　i地点（2次）
作山遺跡 g地点・作山塚群 b地点
新林遺跡　f地点
新林遺跡　g地点
平戸台遺跡　c地点
殿内遺跡　e地点
殿内遺跡　f地点
内野南遺跡　i地点

平成29年度

八千代市教育委員会

例　　言

1　本書は，八千代市教育委員会が平成28年度市内遺跡発掘調査事業として，国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は，平成29年度事業として行った。

2　本書に収録した遺跡は，以下のとおりである。

No.	遺跡No.	遺　跡　名　　地点名	所　在　地	調査期間	調査面積(㎡) 掘削/対象	調査原因	担当者
1	151	麦丸遺跡 j 地点	麦丸字金塚 1130-4,-5,1131-2,-4	H28.4.14 ～4.20	上層 128/1,211.54	宅地造成	森
2	106	雷遺跡 d 地点	保品字中台谷 1936-3の一部,1915-117	H28.4.25 ～5.2	上層 152/1,311.01	集合住宅建設	森
3	106	雷遺跡 e 地点	米本字下宿東2538-48	H28.11.9	上層 45/700.47	集合住宅建設	森
4	106	雷遺跡 f 地点	米本字下宿東2538-13	H28.11.10	上層 30/441.29	集合住宅建設	森
5	28	間見穴遺跡 c 地点	島田台字菖蒲台 892-1の一部	H28.5.18 ～5.31	上層 224/2,370.11	託児施設兼 集合住宅建設	宮下
6	204	浅間内遺跡 b 地点	村上南２丁目 22-20,-21及び 22-22,-10の各一部	H28.5.24 ～5.26	上層 40/380.68	集合住宅建設	森
7	208	白筋遺跡 d 地点	村上字白筋2667の一部	H29.3.10 ～3.23	上層 194.76/1,615.69	宅地造成	宮下
8	179	菅地ノ台遺跡 e 地点	萱田字菅地台 439-1,-3の各一部	H28.7.1 ～7.8	上層 75/615.86	個人住宅建設	森
9	100	逆水遺跡 i 地点(２次)	米本1280-1,-4	H28.7.11 ～7.15	上層　80/727	福祉施設建設	宮下
10	1 3	作山遺跡　g 地点 作山塚群　b 地点	小池字作山407	H28.7.20 ～8.1	上層 173/1,750.09	福祉施設建設	森
11	233	新林遺跡 f 地点	上高野字稲荷前 1166-5,-6,-8の各一部, 1166-7	H28.8.12 ～8.19	上層 178/2,647.34	宅地造成	森
12	233	新林遺跡 g 地点	上高野字新林 1198-1,-3の各一部	H29.2.20 ～2.23	上層 42/411.23	事務所併用住戸, ワンルーム住戸 建設	轟
13	25	平戸台遺跡 c 地点	島田台字平戸台 937-1,-2及び-4の一部	H28.9.12 ～9.26	上層 375/3,439	集合住宅建設	森
14	203	殿内遺跡 e 地点	村上字殿ノ内 1579-1,-8,-9,-10, 1578-2,-4	H28.10.5 ～10.14	上層 76/706.57	宅地造成	森
15	203	殿内遺跡 f 地点	村上字殿ノ内1572-1	H28.12.13 ～12.16	上層　42/300	宅地造成	森
16	289	内野南遺跡 i 地点	吉橋字内野 1058-2の一部, 1059-1,-3,-4,-5,-6, 1063-3,-4,-10	H28.12.19 ～ H29.1.12	上層 680/6,720	宅地造成	森

3　平成28年度における，本事業の調査体制は以下のとおりである。

調査主体者	加賀谷　孝	八千代市教育委員会　教育長
	内藤　俊夫	八千代市教育委員会　教育次長
事務担当	蕨　　茂美	八千代市教育委員会教育総務課　主幹（文化財担当）
	宮澤　久史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　副主幹
	佐藤 麻里子	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　主査
調査担当	森　　竜哉	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　副主幹
	宮下　聡史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　文化財主事
	轟　　直行	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　文化財主事
整理担当	秋山　利光	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　主任主事

4　整理作業は，調査時の基礎整理，資料の収集・整理，出土土器の拓本・断面実測を宇都洋子，岩崎千代子，杵島由希，石田香，遺物の実測・トレース，遺物の写真，本文の執筆・編集を秋山が行った。

5　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　　国土地理院　「佐倉」１/50,000（平成10年発行）

各遺跡の調査地点位置図　八千代市　「八千代都市計画基本図」１/2,500（平成22年撮影･平成24年修正）を加筆・修正した。各図は原図を正位置のまま使用し，常に図の真上方向を座標北とした。

6　本書の地形図等の実測図における用例は，以下のとおりである。

⑴図面の縮尺は以下を基本とし，必要に応じて縮尺を変更した。

調査地点位置図　１/5,000　トレンチ配置図　１/200～１/1,000　土層断面図　１/40～１/80

⑵図中における標高は，調査時に用いた基準の精度に応じた有効桁で示した。

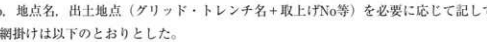
7　本書の遺物実測図における用例は，以下のとおりである。

⑴図面の縮尺は基本的に以下のとおりとした。ただし，必要に応じて変更した場合は図中に示した。

完形土器等実測図 １/４　　土器拓影図・土製品実測図 １/３　　石器・石製品実測図 １/２～１/４

⑵遺物実測図には挿図番号をゴシック体，遺物の注記内容を明朝体で挿図番号の後に表記した。注記は遺跡No，地点名，出土地点（グリッド・トレンチ名＋取上げNo等）を必要に応じて記している。

⑶図中の網掛けは以下のとおりとした。



8　表又は本文中の[　]は現存値，（　）は推定復元値を表している。

また，本文第１表から第13表中の「報告書」の欄における「市内H○」の記載は，本市「市内遺跡調査報告書平成○年度」に掲載されていることを意味する。

9　本報告の発掘調査に伴う出土品及び図面，写真等の記録類は八千代市教育委員会で保管する。

目　　次

例　言・目　次・挿図目次・表 目 次・図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　各調査の概要……7
1．麦丸遺跡ｊ地点……7
2．雷遺跡ｄ地点……10
3・4．雷遺跡ｅ・ｆ地点……13
5．間見穴遺跡ｃ地点……15
6．浅間内遺跡ｂ地点……18
7．白筋遺跡ｄ地点……21
8．菅地ノ台遺跡ｅ地点……24
9．逆水遺跡ｉ地点（２次）……27
10．作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点……30
11．新林遺跡ｆ地点……33
12．新林遺跡ｇ地点……35
13．平戸台遺跡ｃ地点……37
14．殿内遺跡ｅ地点……40
15．殿内遺跡ｆ地点……43
16．内野南遺跡ｉ地点……45
報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　平成28年度市内遺跡調査地点位置図
第２図　麦丸遺跡ｊ地点位置図……8
第３図　ｊ地点トレンチ配置図・土層断面図……9
第４図　雷遺跡ｄ・ｅ・ｆ地点位置図……10
第５図　ｄ地点トレンチ配置図・土層断面図・周辺表採遺物……11
第６図　ｅ・ｆ地点トレンチ配置図……13
第７図　間見穴遺跡ｃ地点位置図……15
第８図　ｃ地点トレンチ配置図・土層断面図……16
第９図　浅間内遺跡ｂ地点・白筋遺跡ｄ地点位置図……18
第10図　浅間内遺跡ｂ地点トレンチ配置図・土層断面図……19
第11図　白筋遺跡ｄ地点トレンチ配置図・土層断面図……21
第12図　菅地ノ台遺跡ｅ地点位置図……24
第13図　ｅ地点トレンチ配置図・土層断面図……25
第14図　逆水遺跡ｉ地点位置図……27
第15図　ｉ地点２次確認調査トレンチ配置図・土層断面図……28
第16図　作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点位置図……31
第17図　ｇ地点トレンチ配置図・土層断面図……32
第18図　新林遺跡ｆ・ｇ地点位置図……33
第19図　ｆ地点トレンチ配置図・土層断面図……34
第20図　ｇ地点トレンチ配置図・土層断面図……36
第21図　平戸台遺跡ｃ地点位置図……37
第22図　ｃ地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物……38

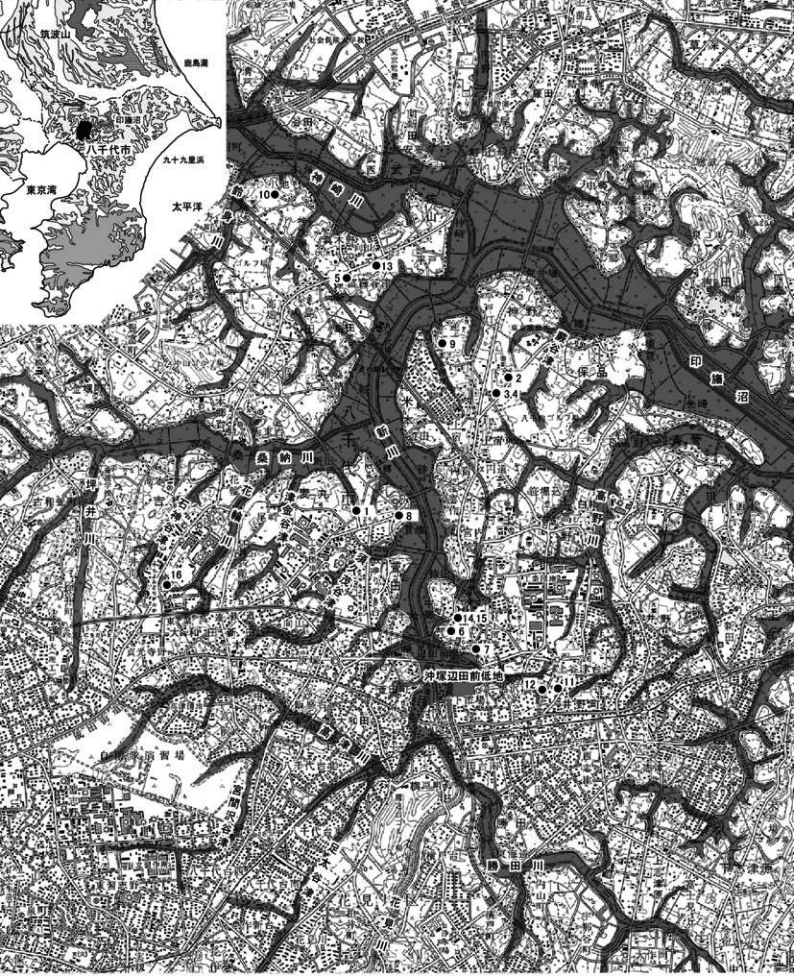
第23図　殿内遺跡ｅ・ｆ地点位置図……40
第24図　ｅ地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物……41
第25図　ｆ地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物……43
第26図　内野南遺跡ｉ地点位置図……45
第27図　ｉ地点トレンチ配置図・土層断面図……46
第28図　内野南遺跡ｉ地点出土遺物……48

表　目　次

第１表　麦丸遺跡の調査……7
第２表　雷遺跡の調査……11
第３表　間見穴遺跡の調査……16
第４表　浅間内遺跡の調査……18
第５表　白筋遺跡の調査……21
第６表　菅地ノ台遺跡の調査……25
第７表　逆水遺跡の調査……28
第８表　作山遺跡の調査……30
第９表　作山塚群の調査……30
第10表　新林遺跡の調査……33
第11表　平戸台遺跡の調査……37
第12表　殿内遺跡の調査……40
第13表　内野南遺跡の調査……46

図版目次

図版１　麦丸遺跡ｊ地点……9
図版２　雷遺跡ｄ地点……12
図版３　雷遺跡ｅ地点……14
図版４　雷遺跡ｆ地点……14
図版５　間見穴遺跡ｃ地点……17
図版６　浅間内遺跡ｂ地点……20
図版７　白筋遺跡ｄ地点……23
図版８　菅地ノ台遺跡ｅ地点……26
図版９　逆水遺跡ｉ地点（２次）……29
図版10　作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点……32
図版11　新林遺跡ｆ地点……34
図版12　新林遺跡ｇ地点……36
図版13　平戸台遺跡ｃ地点……39
図版14　殿内遺跡ｅ地点……42
図版15　殿内遺跡ｆ地点……44
図版16　内野南遺跡ｉ地点(1)……49
図版17　内野南遺跡ｉ地点(2)……50



第１図　平成28年度市内遺跡調査地点位置図

0　1km　2km
1/50,000

1.麦丸遺跡ｊ地点　2.雷遺跡ｄ地点　3.雷遺跡ｅ地点　4.雷遺跡ｆ地点　5.間見穴遺跡ｃ地点　6.浅間内遺跡ｂ地点　7.白筋遺跡ｄ地点
8.菅地ノ台遺跡ｅ地点　9.逆水遺跡ｉ地点（2次）　10.作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点　11.新林遺跡ｆ地点　12.新林遺跡ｇ地点
13.平戸台遺跡ｃ地点　14.殿内遺跡ｅ地点　15.殿内遺跡ｆ地点　16.内野南遺跡ｉ地点

Ⅰ　調査に至る経緯

八千代市は都心から東へ約30km，千葉市の市街地中心部から北へ約13km，千葉県の北西部地域で印旛沼西岸に位置する。市域は房総半島の内陸部にあり，地形は平坦な下総台地とそれを樹枝状に開析する河川や谷津で構成されている。

市域の下総台地は，三つの地形面で構成されている。下総上位面は台地全体に広く分布し，最も上位に位置する。下総下位面は神崎川の両岸や新川の西岸，旧印旛沼の南岸などに幅１～３kmの範囲で分布し，中位に位置する。千葉段丘面は旧印旛沼の南岸，神崎川の南岸，桑納川の南岸，新川の西岸，高津川の南岸，勝田川の両岸などにみられ，複数の段丘面で構成される下位の段丘面群である。

市域の中央を南北に貫く新川（印旛放水路）は，上流域では勝田川，下流域ではかつて平戸川と呼ばれており，本来，印旛沼水系に属していた。千葉市の長沼から大日一帯を水源とし，南から北に流下し，その左岸から高津川（八千代１号幹線）・桑納川・神崎川が合流し，平戸で流れを東に変え，印旛沼に流れ込む。戦後，大和田排水機場の完成と江戸時代から進められていた新川と花見川の開通により，現在は印旛沼が増水した時に湖水を東京湾に流す放水路となっている。

市内を流れる河川は，市域の台地を大きく大和田・睦・阿蘇の３つの区域に区分している。

本市における埋蔵文化財の保護は，文化財保護法の規定に基づき，千葉県教育委員会（以下「県教委」という。）と連携して実施してきた。とりわけ，市域で行われる開発事業については，「八千代市開発事業における事前協議の手続等に関する条例」および同条例施行規則に基づき，『八千代市開発事業』の事前協議として，八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）が「埋蔵文化財の取り扱いについて（確認）」（以下「確認依頼」という。）の書面を受け，開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であるか，または，現地踏査等により確認調査が必要と判断された場合に，埋蔵文化財の範囲や時代・性格など包蔵地の内容を具体的に把握するため，事業者や土地所有者等の承諾や協力を得て，国庫及び県費の補助を受け「市内遺跡発掘調査事業」（以下「市内遺跡事業」という。）として確認調査を実施してきた。市教委は実施した調査の成果を基礎資料として，埋蔵文化財の保護に努めてきた。

以下は，平成28年度に実施した「市内遺跡事業」の各調査に至る経緯である。

１．麦丸遺跡ｊ地点

平成27年11月24日，株式会社 スワロから八千代市麦丸字金塚1130-4，-5，1131-2，-4　公図上の面積を参考にした推定1,213.98㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地で，周知の埋蔵文化財包蔵地（八千代市遺跡№（以下「市№」という。）151 麦丸遺跡）の区域内にあり，近隣の調査で縄文時代の遺構・遺物が検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域について，文化財保護法（以下「法」という。）第93条第１項の規定による土木工事のための発掘届（以下「法第93条の届出」という。）及びその取扱いについての協議（以下「協議」という。）が必要である旨，同年12月10日付けで回答した。市教委と開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，市内遺跡事業として確認調査（以下「確認調査」という。）を行うこととなった。

翌平成28年２月１日付けで，同社から実測面積1,211.54㎡で法第93条の届出が提出された。市教委は４月13日付けで法第99条第１項の規定による埋蔵文化財の発掘調査（以下「法第99条の発掘調査」という。）を県教委に報告し，準備の整った同年４月14日調査を開始した。

２．雷遺跡ｄ地点

平成28年３月１日，株式会社 ミヤテックから八千代市保品字中台谷1936-3の一部，1915-117　面積1,311.01㎡に集合住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地であったが，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№106 雷遺跡）の区域内にあり，近隣の調査で弥生時代から奈良・平安時代にわたる集落など遺構・遺物が多く検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域について，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年３月14日付けで回答した。市教委と開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年４月７日付け，同社から法第93条の届出が提出された。市教委は同年４月22日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年４月25日調査を開始した。

３．雷遺跡ｅ地点

平成28年９月23日，土屋 弘之氏から八千代市米本字下宿東2538-48　面積700.47㎡に集合住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地で，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№106 雷遺跡）の区域内にあり，近隣の調査で弥生時代から奈良・平安時代にわたる集落など遺構・遺物が多く検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域について，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年９月29日付けで回答した。市教委と確認申請者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は，同年９月23日付けで同氏から提出されていた。市教委は同年11月８日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年11月９日調査を開始した。

４．雷遺跡ｆ地点

平成28年９月23日，飯島 スミ氏から八千代市米本字下宿東2538-13　面積441.29㎡に集合住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

当該確認地は，前述の同遺跡ｅ地点に隣接しており，現況が畑地で，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№106 雷遺跡）の区域内であることは同様であった。そのため，市教委は確認依頼地全域について，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年９月29日付けで回答した。市教委と確認申請者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は，同年９月23日付けで同氏から提出されていた。市教委は同年11月８日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，ｅ地点と調査を並行して実施することを念頭に準備の整った同年11月10日調査を開始した。

５．間見穴遺跡ｃ地点

平成28年２月８日，株式会社 メディカルサービスから八千代市島田台字菖蒲台892-1の一部 面積

2,370.11㎡に託児施設兼集合住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地であったが，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№28 間見穴遺跡）の区域内にあり，近隣の調査で弥生時代から奈良・平安時代にわたる集落などの遺構・遺物が多く検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域について，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年２月12日付けで回答した。市教委と開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は，同年２月８日付けで株式会社 千葉メディカルサービスから提出されていた。市教委は同年５月17日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年５月18日調査を開始した。

６．浅間内遺跡ｂ地点

平成28年２月26日，竹内 せき氏から八千代市村上南２丁目22-20，-21及び22-22，-10の各一部，面積380.63㎡に集合住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は宅地であったが，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№204 浅間内遺跡）の区域内にあり，近隣の調査で縄文時代から奈良・平安時代の集落を中心とした遺構・遺物が数多く検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域について，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年３月８日付けで回答した。市教委と確認申請者及び開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年３月16日付け，同氏から法第93条の届出が提出された。市教委は同年５月19日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年５月24日に調査を開始した。

７．白筋遺跡ｄ地点

平成29年２月16日，山本 尊明氏から八千代市村上字白筋2667の一部　面積1,881.69㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は，アスファルトの敷かれた大型店舗の駐車場となっていたが，大半が周知の埋蔵文化財包蔵地（市№208 白筋遺跡）の区域内にあり，隣接する区域の調査では奈良・平安時代の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため，市教委は包蔵地外となる道路側の７ｍ幅の区域266㎡を除外した確認依頼地の一部1,615.69㎡に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年２月21日付けで回答した。市教委と確認申請者及び開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は，同年２月16日付けで同氏から提出されていた。市教委は同年３月９日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年３月10日に調査を開始した。

８．菅地ノ台遺跡ｅ地点

平成28年４月14日，生田 洋子氏から八千代市萱田字菅地台439-1，-3の各一部 面積615.86㎡に個人住宅の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地であったが，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№179 菅地ノ台遺跡）の区域内にあり，周辺区域の調査で弥生時代後期から奈良・平安時代の集落などの遺構・遺物が数多く検出されていた。そ

のため，市教委は確認依頼地全域に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年４月22日付けで回答した。市教委と確認申請者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年６月８日付け，同氏から法第93条の届出が提出された。市教委は同年６月29日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年７月１日に調査を開始した。

９．逆水遺跡ｉ地点　第２次確認調査

ｉ地点におけるこれまでの経緯は，平成27年７月22日，社会福祉法人 八千代翼友福祉会から八千代市米本1280-1，-4 公図上の面積1,419㎡に社会福祉施設の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出されたことから始まった。

確認地の現況は，既存建物がある砂利敷きの資材置き場であったが，区域が周知の埋蔵文化財包蔵地（市№100 逆水遺跡）の区域内にあり，周辺区域の調査で弥生時代後期の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域に対して，同年７月28日付けで回答し，確認調査を行うこととなった。８月３日，同法人から当初の予定区域全域に対し，法第93条の届出が提出された。しかし，当初の現況に既存建物やコンクリート舗装などが残存していたため，調査が可能な692㎡の区域に対する確認調査が同年８月31日から９月14日まで実施された（※「市内遺跡 平成28年度」で報告済）。さらに，遺構が検出された約151㎡の区域の本調査が同年11月11日から12月４日まで行われた（※「逆水遺跡ｉ地点」で報告済）。調査ができなかった約727㎡の区域は当面現状保存とされた。（昨年度報告された市内遺跡の面積は，正確な測量図が無かったため，概略図上で計測したことにより，実際と若干の相違が生じていた。今回は事業者より提出された測量図面をもとに，公文書として正式に報告された数値を用いることとした。）

今回，現状保存とされた区域の調査が可能となったため，平成28年６月16日再度，予定区域全域の公図上の面積1,419㎡で法第93条の届出が同法人から提出された。市教委は未調査区域 面積727㎡に対して，同年７月７日付けで法第99条の発掘調査を第２次確認調査として県教委に報告し，準備の整った同年７月11日に調査を開始した。

10．作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点

平成28年３月29日，社会福祉法人 心聖会から八千代市小池字作山407　面積879㎡に福祉施設の建設を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は山林で，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№１ 作山遺跡，市№３ 作山塚群）の区域内にあり，周辺区域の調査で弥生時代から奈良・平安時代及び中近世の遺構・遺物が検出されていた。また，区域内には現況で２基の塚状の盛土がみられ作山塚群の一部と判断された。そのため，市教委は確認依頼地全域に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年３月30日付けで回答した。

同年６月27日付けで，同法人から開発予定区域を拡大し，実測値1,750.09㎡として法第93条の届出が提出された。市教委と開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。市教委は同年７月15日付けで，届出された全域に対する法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年７月20日調査を開始した。

11．新林遺跡ｆ地点

平成28年７月７日，大東建設 株式会社から八千代市上高野字稲荷前1166-5，-6，-8の各一部，-7　面積 2,647.34㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地で，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№233 新林遺跡）の区域内にあり，隣接する区域の調査で縄文時代等の遺構・遺物が検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年７月15日付けで回答した。市教委と開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年７月19日付け，同社から法第93条の届出が提出された。市教委は同年８月９日付け法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年８月12日に調査を開始した。

12．新林遺跡ｇ地点

平成29年１月31日，株式会社 向笠工務店から八千代市上高野字新林1198-1，-3の各一部 面積411.23㎡に事務所併用集合住宅の建築を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況では既存建築物があったが，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№233 新林遺跡）の区域内にあり，隣接する区域の調査で縄文時代等の遺構・遺物が検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年２月７日付けで回答した。

市教委と開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。法第93条の届出は，同年１月31日付けで，すでに同社から提出されていた。市教委は同年２月17日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年２月20日調査を開始した。

13．平戸台遺跡ｃ地点

平成28年４月７日，恩田 晃氏から八千代市島田台字平戸台937-1，-2，-4，-5，-6 面積 6,267.30㎡に集合住宅の建築を目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地で，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№25 平戸台遺跡）の区域内にあり，隣接する区域の調査で縄文時代等の遺構・遺物が検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年４月21日付けで回答した。市教委と確認申請者及び開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年８月26日付けで，同氏から開発区域を島田台字平戸台937-1，-2，-4の一部 3,439㎡に縮小し，法第93条の届出が提出された。市教委は同年９月８日付けで，届出された区域に対する法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年９月12日に調査を開始した。

14．殿内遺跡ｅ地点

平成28年９月２日，株式会社 レスパイトサービスから八千代市村上字殿ノ内1579-1，-8，-9，-10，1578-2，-4 面積693.66㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地で，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№203 殿内遺跡）の区域内にあり，隣接する区域の調査で古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年９月８日付けで回答した。市教委と開

発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年９月15日付けで同社から，実測値706.57㎡で法第93条の届出が提出された。市教委は同年10月３日付け法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年10月５日調査を開始した。

15．殿内遺跡ｆ地点

平成28年10月17日，川嶋 一永氏から八千代市村上字殿ノ内1571-1，1572-1，-4，-5，1575-1 公図上の面積1,021.9㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況には既存住宅があり宅地となっていたが，周知の埋蔵文化財包蔵地（市№203 殿内遺跡）の区域内にあり，隣接する区域の調査で古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地全域に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年10月24日付けで回答した。市教委と確認申請者及び開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年10月27日付けで，同氏から法第93条の届出が提出された。開発区域内に既存建物があり調査ができない区域があったため，調査可能な確認地の一部殿ノ内1572-1 300㎡に対して，市教委は同年12月12日付け法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年12月13日調査を開始した。

16．内野南遺跡ｉ地点

平成28年７月25日，三信住建 株式会社から八千代市吉橋字内野1058-2，1059-1，-3，-4，-5，-6，1063-3，-4，-10，1054，1055，1056 面積 14,602.76㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は，工場跡地の荒蕪地などで，当該地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地（市№289 内野南遺跡）の区域内にあり，周辺の調査で縄文時代を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため，市教委は確認依頼地の一部（1058-2の一部，1059-1，-3，-4，-5，-6，1063-3，-4，-10）約6,720㎡に対して，法第93条の届出及び協議が必要である旨，同年８月１日付けで回答した。市教委と開発事業者との協議において，事業継続の意向が確認されたため，確認調査を行うこととなった。

同年９月30日付けで，同社から全域に対する法第93条の届出が提出された。市教委は同年12月16日付け法第99条の発掘調査を県教委に報告し，準備の整った同年12月19日調査を開始した。

参考文献

杉原重夫（1970）「下総台地西部における地形の発達」『地理学評論 43 12』

佐々木茂ほか（1981）「八千代市の地形・地質」『八千代市文化財総合調査報告Ⅰ』

Ⅱ　各調査の概要

１．麦丸遺跡ｊ地点

遺跡の立地と概要

麦丸遺跡は市域の中央部，麦丸地区に所在する。新川中流域で桑納川が左岸から合流する地点の南岸，標高13mから23mの台地上に立地する。地形面区分では台地先端部に一部千葉段丘面を含み，大半は下総下位面に展開する。本跡の規模は，東西約600m，南北約950mの大規模な区域を包蔵地としている。昭和58年の「八千代の遺跡」では四つの遺跡として認識されていたが，地形的に区分する根拠が薄弱だったため，本跡の西側で桑納川方向に向かって開析された谷津と東側を新川に向かって開析された谷津で囲まれた台地全体を一つの遺跡として統合した。

本跡の調査は過去９回行われているが，はっきりとした遺構が検出された地点は，２か所であった。d地点の縄文時代早期の炉穴１基，ｅ地点の古墳時代前期の竪穴建物跡１軒で両地点ともに台地の先端に近い。その他の地点の多くは台地の奥の平坦部で，明確な遺構はみられないが，各時代の遺物はわずかながらも出土する。

今回の調査区ｊ地点は，本跡南部に位置し，台地奥の平坦部で谷津尻にもあたる。調査区の中央を通る市道40-0143号線（農免道路）建設時には調査が行われていない。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状に合わせて，任意に10m方眼を組み，５m間隔で1.6m×５mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面検出と包含層確認のため人力により行い，その後，ローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査で標高の測定は行っていない。

調査は平成28年４月14日から４月20日まで行われた。14日木曜日：トレンチの設定，手掘りによる掘削。ソフトロームまで30～35cmの深さ。15日金曜日：重機にて掘削。トレンチを精査し，遺構検出作業実施。18日月曜日：掘削完了。土層実測。20日水曜日：埋め戻しを実施し，調査を完了した。

第１表　麦丸遺跡の調査

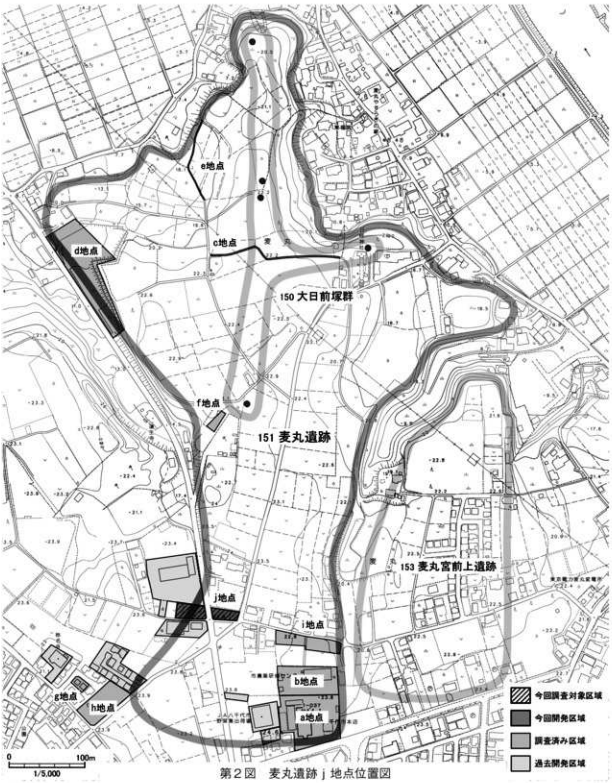
地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	(　)/5,641	確認	なし	縄文土器（後期加曽利B主体），黒曜石	調査会	S56.8	＊1
	5,641	本調査			調査会	S56.8	
b	(　)/2,495	確認本調査	なし	縄文土器（後期）	調査会	S56.8	
c	44.8/324	確認	時期不明 溝1	縄文土器，古墳時代 土師器	市教委	H12.2	＊2
d	75/700	確認	縄文時代早期 炉穴1 時期不明 溝1	縄文土器（早期～後期）少量 石器1	市教委	H12.9	市内13
e	38.5/228	確認	古墳時代前期 竪穴建物跡1 近現代 溝1	縄文土器,弥生土器, 古墳時代 土師器	市教委	H16.1	＊3
f	39.6/282.1 下層 9.6/282.1	確認	なし	黒曜石片	市教委	H17.5	市内18
g	26/336.45	確認	なし	なし	市教委	H22.11	市内23
h	200/1,986.59	確認	縄文時代 土坑2 古墳時代 土坑1	なし	市教委	H23.1	市内23
	11	本調査				H23.2	＊4
i	156.8/1,319.13	確認	近世・近代 溝1 近現代 溝1	縄文土器 奈良・平安時代 土師器	市教委	H24.5	市内25

＊1「千葉県八千代市麦丸遺跡」1982(S57)　＊2「千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書」2003(H15)　＊3「千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ」2014(H26)
＊4「千葉県八千代市麦丸遺跡h地点-宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」2011(H23)

調査の概要

発掘調査は調査対象面積 1,211.54㎡に対して，トレンチ16か所，掘削面積128㎡，全体の10.57％の面積を掘削し調査した。

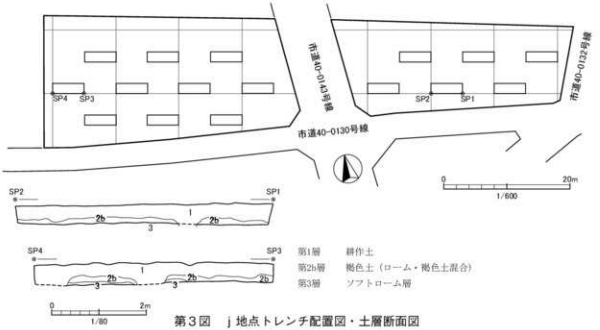
調査区はほぼ平坦な地形で，現地表面より30～35㎝ほどで遺構確認面とするソフトローム層が検出された。表土には耕作土がみられ，その下層も褐色土にロームが混入していた。この調査の結果，遺構・遺物は検出されなかった。



第２図　麦丸遺跡ｊ地点位置図

調査のまとめ

発掘調査の結果，遺構・遺物は検出されず，保存協議の対象とはならなかった。今回，新たな成果は得られなかったが，南北に細長く展開する本跡域において南部一帯で遺構・遺物の密度が極めて希薄であることが改めて確認された。



第３図　ｊ地点トレンチ配置図・土層断面図

図版１　麦丸遺跡ｊ地点

１．調査区全景

２．調査風景

３．SP１～SP２土層

４．トレンチ掘削状況

２．雷遺跡ｄ地点

遺跡の立地と概要

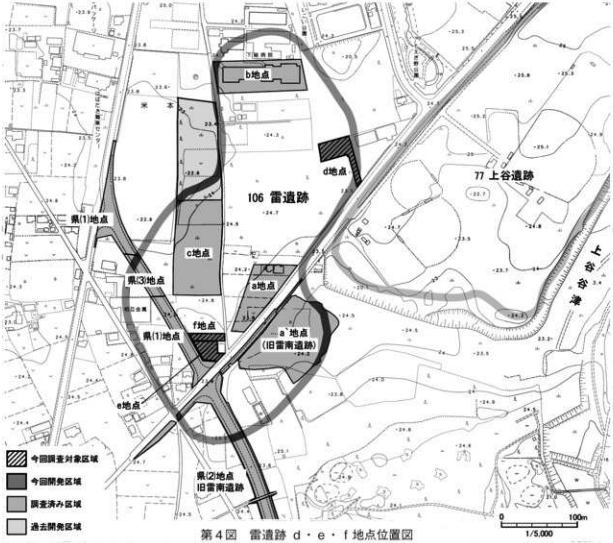
雷遺跡は市域の北東部，米木・保品地区に所在する。新川上流域で流入する蕨谷津と上谷谷津の上流，標高24ｍ前後の台地平坦面に立地する。地形面区分では下総下位面に区分される。本跡の規模は，東西約260ｍ，南北約550ｍの区域を包蔵地としている。昭和58年の「八千代の遺跡」では雷南遺跡（旧市№107）との二つの遺跡として認識されていたが，調査の進展により一つの遺跡として統合した。

本跡における調査は，雷遺跡として４地点，雷南遺跡として２地点，計６地点７回調査が行われている。過去の調査では，雷遺跡ａ地点及びａ′地点（旧雷南遺跡）を中心に弥生時代から平安時代の竪穴建物跡が密度高く検出されている。また，出土遺物も縄文土器のほか，弥生土器，古墳時代から平安時代の土師器・須恵器も多数検出されている。

今回の調査地点は，本跡の北東端に位置し，道路を隔てて上谷遺跡に隣接する。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区域の形状に合わせて任意に10ｍ方眼を組み，５ｍ間隔で２ｍ×５ｍのトレンチを基本に設定した。掘削は遺構確認面を確認するため人力により行い，その後，遺構確認面まで重機で表土を除



第４図　雷遺跡ｄ・ｅ・ｆ地点位置図

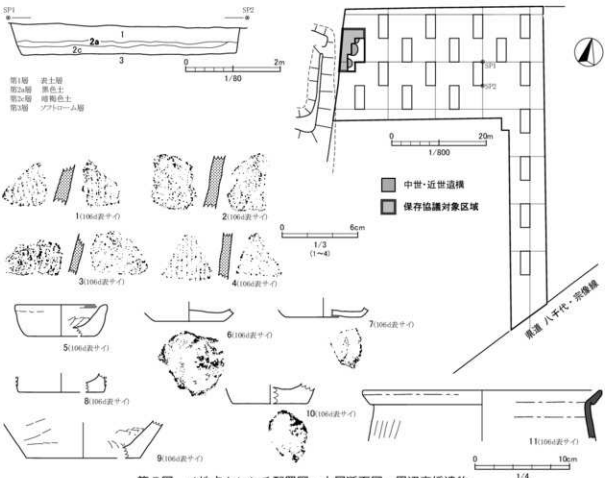
去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査で標高の測定は行っていない。

調査は平成28年４月25日から５月２日まで行われた。25日月曜日：トレンチの設定，人力での掘削開始し，並行して重機による表土除去作業を開始。27日水曜日：重機による掘削完了。遺構検出作業。５月２日月曜日：調査区西側のトレンチから落込みを検出。トレンチ拡張。土層実測。重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

第２表　雷遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	2,870/2,870	確認	弥生時代 竪穴建物跡1 古墳時代後期 竪穴建物跡5 平安時代 竪穴建物跡43 時期不明 竪穴建物跡5 溝2 土抵1	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器	調査会	H5.4	●1
a'	720/8,500	確認	弥生時代 竪穴建物跡10 平安時代 竪穴建物跡18 溝1 土抵4 炉穴1	縄文土器(早期～後期) 弥生土器(後期) 平安時代 土師器	調査会	H7.7	
(旧雷南遺跡a地点)		一部本調査					
県調査(1)	556/5,563 下層112/5,563	確認	溝1	弥生土器(後期) 奈良・平安時代 土師器、須恵器 中・近世 陶磁器、土製品	千葉県文化財センター	H9.4	●2
県調査(2) (旧雷南)	633/6,326 下層256/6,326	確認	旧石器石器集中1地点 縄文時代 陥穴1 弥生時代 竪穴建物跡1	掻先形尖頭器、彫刻刀形石器、礫石刃、剥片 縄文土器(後期) 弥生土器(後期)	千葉県文化財センター	H9.4	
	1,035 下層 136	本調査	奈良・平安竪穴建物跡1 中・近世 土坑2、ピット群1群、溝2	奈良・平安時代 土師器、須恵器 中・近世 土製品			
県調査(3)	220/1,200 下層 48/1,200	確認	中・近世 溝1	中世～近世 陶器	千葉県教育振興財団	H11.7	●3
b	454/3,648.77	確認	時期不明 道路状遺構1　道路の両側に溝を有する	なし	市教委	H12.4	市内H13
c	702/8,009	確認	弥生時代 竪穴建物跡1 溝1	弥生土器、奈良・平安時代 土師器・須恵器	市教委	H26.3	市内H26

●1「東谷遺跡 役山東遺跡 雷南遺跡 雷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋文文化財調査報告書Ⅰ～第3分冊～」2004(H16)　●2 千葉県文化財センター調査報告第359集「主要地方道千葉竜ヶ崎線埋蔵文化財調査報告書-八千代市雷遺跡・雷南遺跡-」1999(H11)　●3 千葉県教育振興財団調査報告第562集　「八千代市向地遺跡・雷遺跡・阿蘇中学校東側遺跡-県単道路改良委託(幹線道路新整備)（主要地方道千葉竜ヶ崎線埋蔵文化財調査)-」2007(H19)



第５図　ｄ地点トレンチ配置図・土層断面図・周辺表採遺物

調査の概要

発掘調査は調査対象面積1,311.01㎡に対して，トレンチ18か所及び拡張１か所，掘削面積152㎡，全体の11.59％の面積を掘削し調査した。

調査区の地形はほぼ平坦で，現地表面より60～70㎝ほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。また，土層は表土以下自然堆積が残存していた。この調査の結果，遺構としては中近世の土坑３基が検出された。

検出された土坑の覆土は，上層で黒褐色土（ロームブロック・ローム粒混入，しまり欠く），下層で褐色土（ローム混入，ややしまり欠く）であり，深さが60～70㎝であった。出土遺物は調査区域内では検出されなかったが，周辺区域で縄文土器や土師器などが表採された。区域内からは採取されていないので，遺物の状況が本地点の状況を表すものではないが，周辺の状況から推察される。採取総数は75点で，縄文時代早期の条痕文系土器が15点，他４点，土師器が47点で坏11点他，須恵器が７点，陶器が１点，不明は１点であった。

調査のまとめ

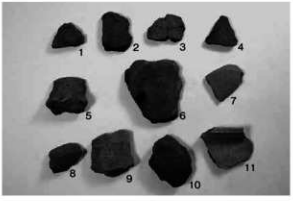
調査の結果，中近世の土坑３基が検出されたが，区域内で遺物は出土していない。そのため，保存協議は遺構が検出された周辺の約36㎡が対象区域となった。本地点は本跡における中心区域からはかけ離れているとみられるが，近隣には縄文時代早期の遺跡や奈良・平安時代の遺構の存在の可能性を示唆し，隣接する上谷遺跡との関連を伺わせる内容であった。

図版２　雷遺跡ｄ地点

１．調査区全景

２．SP１～SP２土層

３．遺構検出状況



４．周辺表採遺物

３・４．雷遺跡ｅ・ｆ地点

遺跡の立地と概要

今回調査したｅ地点とｆ地点は隣接しており，財団法人 千葉県文化財センター調査(1)地点の北側に接している。本跡の南部に位置し，遺構が集中的に検出されたａ地点及びａ′地点に近い。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区域が隣接しているため，同時期に行われた。トレンチはそれぞれの地点で任意に基準線を設定し，１ｍ×５ｍのトレンチを基準線に沿って設定した。掘削は遺構確認面まで重機で表土を除去し，掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行うこととした。この調査で標高の測定は行っていない。

ｅ地点の調査は，平成28年11月９日，ｆ地点の調査は11月10日に行われた。９日水曜日：ｅ地点のトレンチの設定，人力での掘削，平行して重機による表土除去作業。土層観察し，１ｍ以上の盛土を確認したため，重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。10日木曜日：ｆ地点のトレンチの設定，人力での掘削，並行して重機による表土除去作業。土層観察し，ｅ地点の状況と同様に１ｍ以上の盛土を確認したため，重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。これら２地点の調査で土層の実測は行わなかった。

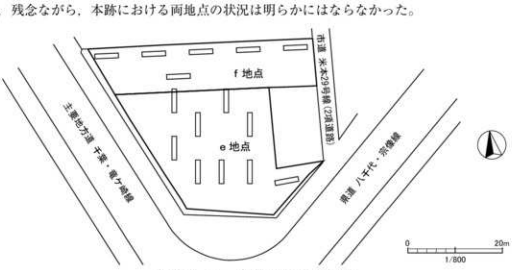
調査の概要

ｅ地点の発掘調査は，調査対象面積700.47㎡に対して，トレンチ９か所，掘削面積45㎡，全体の6.42％の面積を掘削し調査した。ｆ地点は調査対象面積441.29㎡に対して，トレンチ６か所，掘削面積30㎡，全体の6.80％の面積を掘削し調査した。

調査区の現況はほぼ平坦であったが，現地表面から150～190cmほど掘削したところ，自然堆積土を確認できなかった。一部に130cmほどでハードロームが検出されたトレンチもあったが，多くの地点ではそれも確認できなかった。そのため，両区域全体が深く土取りされ，後に埋め土したものと判断された。この両地点の調査の結果，遺構・遺物は検出されていない。

調査のまとめ

これらの両地点の調査の結果は，全体に攪乱が深く激しかったため，遺構・遺物が検出されなかった。そのため，残念ながら，本跡における両地点の状況は明らかにはならなかった。



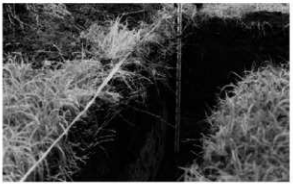
第６図　ｅ・ｆ地点トレンチ配置図

図版３　雷遺跡ｅ地点

１．調査区全景

２．調査風景

３．トレンチ掘削状況



４．トレンチ掘削状況

図版４　雷遺跡ｆ地点

１．調査区全景

２．調査風景

３．トレンチ掘削状況

４．トレンチ掘削状況

5．間見穴遺跡ｃ地点

遺跡の立地と概要

間見穴遺跡は市域の北部，島田台地区に所在する。新川上流域の左岸，標高20mから22mの台地平坦面に立地する。地形面区分では下総下位面に区分される。本跡の規模は，東西約800m，南北約450mの範囲を包蔵地としている。昭和58年の「八千代の遺跡」では二つの遺跡として認識されていたが，地形的に区分する根拠が薄弱だったため，一つの遺跡として統合された。

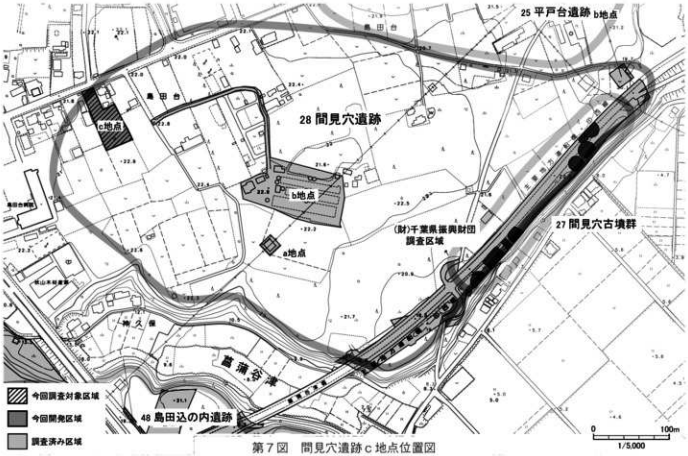
本跡域内の調査は，過去４回行われている。間見穴遺跡として調査が行われたのが３地点，本跡東端部で平戸台遺跡ｂ地点として１地点の調査が行われている。各地点とも縄文時代から奈良・平安時代まで，各時代において竪穴建物跡が多数検出されており，重層的で密度の高い集落が広範囲に展開しているとみられる。さらに，台地先端部では間見穴古墳群（市№27）が立地している。

今回の調査区ｃ地点は，本跡域の北側に位置し，台地奥の平坦部に位置する。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状に合わせ，基点BB１と境界BB２，BB３を基線にして10m方眼を組み，方眼に沿って２m×４mのトレンチを設定することを基本とした。調査区域の現況が栗林を伐採した状況のため，切り株により掘削できない箇所が多く，現況に合わせて任意にずらすこととした。掘削は遺構確認面であるソフトローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後，遺構の検出確認作業，土層の分析を行った。

この調査での標高は，調査区付近で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に測定した。

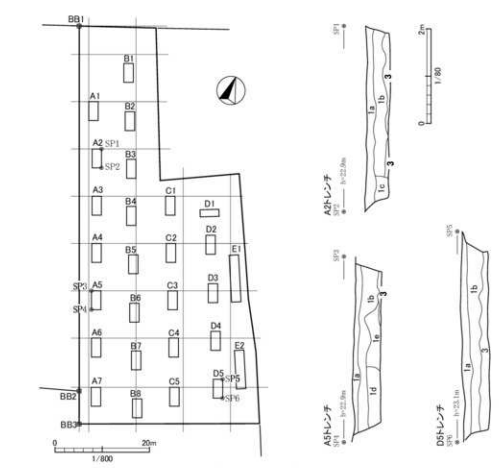


第７図　間見穴遺跡ｃ地点位置図

第３表　間見穴遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	400	確認 本調査	奈良・平安時代 竪穴建物跡1、溝1	奈良・平安時代 土師器、紡石	調査会	S53.11	＊1
b	1,162/9,600	確認	平安時代 竪穴建物跡8 時期不明 竪穴建物跡1、溝3、土坑42、不明1	奈良・平安時代 土師器(墨書・刻書)、須恵器	市教委	H3.1	市内H2
県調査地点	確認 940/9,400 本調査115 2,500 105 6,900 下層 469/9,400 下層本調査 156	確認 本調査	旧石器時代 集中地点2 縄文時代 竪穴建物跡1、土坑1他 弥生～古墳時代 古墳9、竪穴建物跡17 奈良・平安時代 竪穴建物跡10、 掘立柱建物跡4他 中近世 土壙墓・土坑20、溝9、火葬施設6	旧石器 縄文土器、弥生土器 古墳時代～奈良・平安時代 土師器、須恵器、鉄製品、石製品 玉類(勾玉、管玉、ガラス玉)、人骨 中近世 板碑、陶器、銭貨、人骨、土製品		H5.11～ H6.3 H6.6～ H7.2	＊2
	確認 433/4,331 本調査 3,031 下層 247/3,031	確認 本調査	旧石器時代 集中地点1 縄文時代早期 炉合祭760㎡、地点貝塚20 中代27、竪穴遺構2、竪穴建物跡4、土坑7 弥生～古墳時代前期 竪穴建物跡22、土坑4 古墳時代後期～奈良・平安時代 竪穴建物跡18、掘立柱建物跡5 井戸状遺構1、土坑15 中近世 溝9他	旧石器(剥片等) 縄文土器、耳 弥生土器 古墳時代～奈良・平安時代 土師器、須恵器、 鉄製品、石製品、土製品 中・近世 古銭(近世)、陶器	千葉県文化財センター	H10.4～ H11.1	＊3
	確認 /2,770 本調査 2,770 下層 120/2,770	確認 本調査	旧石器時代 集中地点1 弥生末～古墳初期 竪穴建物跡4 古墳時代 竪穴建物跡7、古墳周溝1、 ピット2、溝1 奈良・平安時代 竪穴建物跡20、 掘立柱建物跡7、土坑19 ピット2 中近世 ピット群4、溝2	旧石器(剥片等) 縄文土器、弥生土器 古墳時代～奈良・平安時代 土師器、須恵器、 金属製品、石製品、土製品、銭貨		H15.7～ H16.1	＊4
平戸台遺跡 b2	b2-400	確認 本調査	古墳時代か 竪穴建物跡5、溝3	縄文土器 土師器、滑石製模造品、土玉	調査会 (送電線所在)	S55.10	未報告 ＊5

＊1『東京電力送電鉄塔建設事業に伴う発掘調査報告書』1980(S55)
＊2『千葉県文化財センター調査報告第475集　船橋印西線関係文化財調査報告書3-八千代市間見穴遺跡-』2004(H16)
＊3『千葉県文化財センター調査報告第536集　船橋印西線関係文化財調査報告書4-八千代市間見穴遺跡(2)-』2005(H17)
＊4『千葉県教育振興財団調査報告第596集　船橋印西線関係文化財調査報告5-八千代市高津法ノ内遺跡(2)・間見穴遺跡(3)・道地遺跡(2)-』2006(H18)
＊5未報告のため、終了届で調査内容を確認した。b1地点は当時の工事図面(鉄塔No.182-1(第Ⅱ地点))、b2地点は(No.183(第Ⅱ地点)平戸台遺跡で調査が実施された。詳細は不明である。
b2地点は現在の遺跡区分では、間見穴遺跡に入る。



第８図　ｃ地点トレンチ配置図・土層断面図

調査は平成28年５月18日から５月31日まで行われた。18日水曜日：トレンチの設定。19日木曜日：草刈り。23日月曜日：重機による掘削開始。24日火曜日：重機による掘削完了。遺構確認のための清掃開始。25日水曜日：土層実測。26日木曜日：写真撮影などの記録作業を行う。埋め戻し作業を開始した。31日火曜日：埋め戻しが終了し，調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積2,370.11㎡に対して，トレンチ27か所，掘削面積224㎡，9.45％の面積を掘削調査した。

調査区は遺跡の北端に位置し，台地先端部から内陸に奥深く入り，地形はほぼ平坦であった。調査区の土層は現地表面より20～30㎝ほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出されたが，地表面に砂利を敷き詰めている部分もあり，土砂の移動や撹乱が激しかったようだ。

調査の結果，遺構は検出されなかったが，出土遺物は土師器の小片が２点表採されている。

調査のまとめ

今回の調査の結果，本地点から遺構が検出されず，遺物もわずかであったことにより，保存協議の対象とすべき区域はなかった。これらの状況から，間見穴遺跡の中心区域が台地先端側から中央付近までに密度高く存在し，北側の台地中央付近では希薄になる傾向が推測された。

図版５　間見穴遺跡ｃ地点

１．調査区全景

２．Ｃ３トレンチ東面土層

３．Ａ５トレンチ遺構確認面検出状況

４．トレンチ掘削状況

6．浅間内遺跡ｂ地点

遺跡の立地と概要

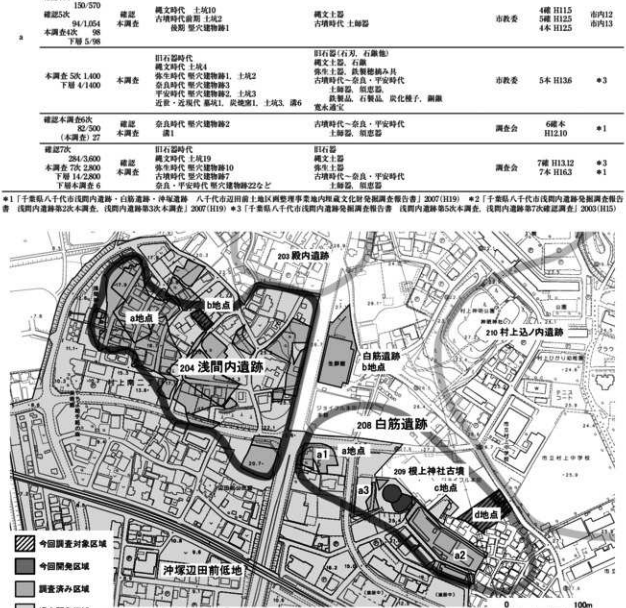
浅間内遺跡は市域の中央部南側，村上地区に所在する。新川中流域の右岸，沖塚辺田前低地の北岸の舌状台地に立地する。地形区分は下総上位面にあたる。現在，区画整理による造成工事が行われ，本来の地形は，大規模に改変されてしまったが，かつては標高25m前後のほぼ平坦な地形を呈していた。

遺跡の規模は，東西方向で約300m，南北方向で約250mの範囲を包蔵地としている。

第４表　浅間内遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	確認 1次1,100/11,510 3次　450/4,500 本調査 1次 1,000 2次(16) 1,400 2次(17) 3,000 3次　4,300 下層 130	確認 本調査	1次本調査・2次本調査(16) 弥生時代～奈良・平安時代 竪穴建物跡19、 掘立柱建物跡1など 2次本調査(17)・3次本調査 縄文時代～奈良・平安時代 竪穴建物跡51、古墳1、 方形周溝2、土坑261など	縄文土器(早期・中期)、土器片錘、石鏃 弥生土器、紡石 古墳時代～奈良・平安時代 土師器、須恵器 鉄製品、石製品 中世 陶磁器	調査会	1確 H6.4～ 3確 H7.1～ 1本 H6.6～ 2本 H7.2～ 2本 H7.4～ 3本 H7.9～	＊1 ＊2
	確認2次　30/200	確認	なし	奈良・平安時代 土師器、須恵器 中世 かわらけ 近世 陶器		2確 H6.7～	＊1
	確認4次 150/570 確認5次　94/1,054 本調査4次　98 下層 5/98	確認 本調査	縄文時代　土坑10 古墳時代前期 土坑2 後期 竪穴建物跡1	縄文土器 古墳時代 土師器	市教委	4確 H11.5 5確 H12.5 4本 H12.5	市内12 市内13
	本調査 5次 1,400 下層 4/1400	本調査	旧石器時代 縄文時代 土坑4 弥生時代 竪穴建物跡1、土坑2 奈良時代 竪穴建物跡3 平安時代 竪穴建物跡2、土坑3 近世・近現代 墓域1、炭焼窯1、土坑3、溝6	旧石器(石刃、石鏃他) 縄文土器、石鏃 弥生土器、鉄製穂摘み具 古墳時代～奈良・平安時代 土師器、須恵器 鉄製品、石製品、炭化種子、銅鏡 寛永通宝	市教委	5本 H13.6	＊3
	確認本調査6次 82/500 （本調査）27	確認 本調査	奈良時代 竪穴建物跡2 溝1	古墳時代～奈良・平安時代 土師器、須恵器	調査会	6確本 H12.10	＊1
	確認7次 284/3,600 本調査 7次 2,800 下層 14/2,800 下層本調査 6	確認 本調査	旧石器時代 縄文時代 土坑19 弥生時代 竪穴建物跡10 古墳時代 竪穴建物跡7 奈良・平安時代 竪穴建物跡22など	旧石器 縄文土器 弥生土器 古墳時代～奈良・平安時代 土師器、須恵器	調査会	7確 H13.12 7本 H16.3	＊3 ＊1

＊1「千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡　八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」2007(H19)　＊2「千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書　浅間内遺跡第2次本調査，浅間内遺跡第3次本調査」2007(H19)　＊3「千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書　浅間内遺跡第5次本調査，浅間内遺跡第7次確認調査」2003(H15)



第９図　浅間内遺跡ｂ地点・白筋遺跡ｄ地点位置図

本跡の調査は，平成６年から平成16年まで断続的に区画整理事業を原因としたａ地点の調査が行われた。遺跡の大半が工事区域となっていたが，既存の宅地や道路の多くは現状保存として調査対象から外され，新設の道路と山林や畑地に対して虫食い状態で調査が行われた。検出された遺構は，縄文時代から奈良・平安時代までの各時代の竪穴建物跡が多数検出されている。

今回の調査地点は，ａ地点の区域内で既存宅地のため，現状保存の措置が取られ，調査が行われなかった区域の一部であった。遺跡の北側に位置し，殿内遺跡や正覚院館跡を隔てる小さな谷津に面している。

調査の方法と経過

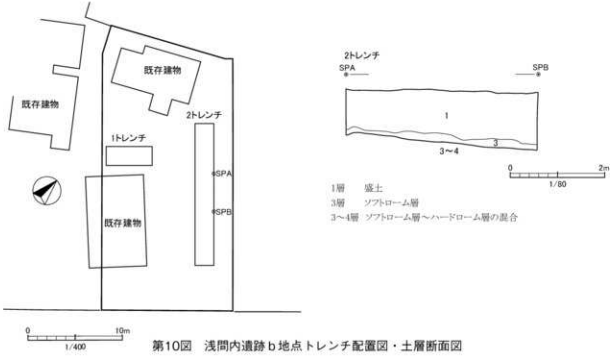
発掘調査は既存の建物を避け，調査区の形状に合わせて２ｍ幅のトレンチを２本設定した。掘削は遺構確認面検出のため，人力による掘削後，遺構確認面としたソフトローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後，遺構の検出確認作業，土層の分析を行った。この調査で標高の測定は行っていない。

調査は平成28年５月24日から５月26日まで行った。24日火曜日：トレンチの設定，人力でのトレンチ掘削を行った。25日水曜日：重機による表土除去作業。土層の実測などの記録作業を行う。26日木曜日：埋め戻し作業を実施し，調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積 380.68㎡に対して，トレンチ２か所，掘削面積40㎡，10.51％の面積を掘削し，調査した。

調査区は現況でほぼ平坦な地形であった。調査区の土層観察では，現地表面より１ｍ以上の盛土が確認され，南側又は南東側に向かって厚くなることが確認された。遺構確認面としたソフトローム層は盛土の直下で検出された。ソフトロームから上層の自然堆積層は検出されていない。調査の結果，遺構・遺物は検出されなかった。



第10図　浅間内遺跡ｂ地点トレンチ配置図・土層断面図

調査のまとめ

今回の調査区域ｂ地点における調査の結果，遺構・遺物は検出されなかった。そのため，保存協議対象区域はない。しかし，遺構密度の濃厚な本跡にあって，本地点の調査成果は，遺跡の限界を示しているとも想定されるが，ソフトローム面の検出状況や表土の堆積状況から掘削削平された可能性や本来の地形の傾斜など疑問点も多くあり，さらに周辺での調査によるデータの蓄積が必要である。

図版６　浅間内遺跡ｂ地点

１．調査区全景

２．トレンチ掘削状況

３．１トレンチ掘削状況

４．２トレンチ掘削状況

５．２トレンチ土層

６．埋め戻し完了状況

7．白筋遺跡ｄ地点

遺跡の立地と概要

白筋遺跡は市域の中央部，村上地区に所在する。新川中流域の右岸で，沖塚辺田前低地の北岸に立地する。前述の浅間内遺跡と小さな谷津を隔て東側に隣接する。地形区分も下総上位面にあたる。標高27m前後の台地から沖塚辺田前低地にもかって南側に傾斜する地形を呈している。遺跡の規模は，北西-南東方向で約350m，北東-南西方向で約130mである。

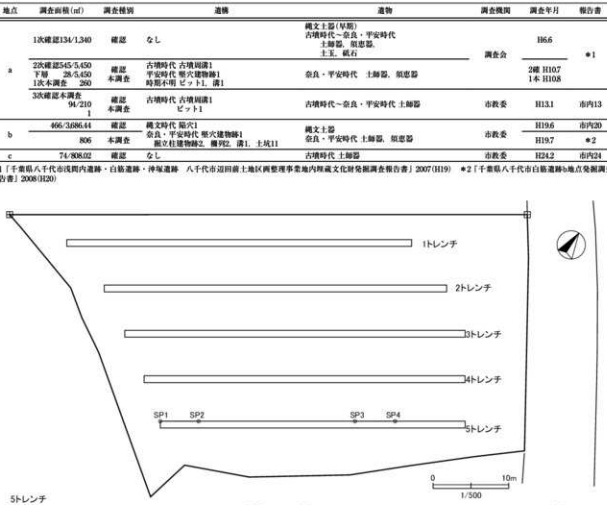
本跡内には根上神社古墳（市№209・市指定文化財）が所在している。

本跡の調査としては，３地点で行われている。ａ地点の調査は，前述の浅間内遺跡と同様，区画整理事業に伴う調査であったが，３次にわたって行われた。奈良・平安時代の竪穴建物跡が１軒，また，根上神

第５表　白筋遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	1次確認134/1,340	確認	なし	縄文土器(早期) 古墳時代～奈良・平安時代 土師器，須恵器， 土玉，礫石	調査会	H6.6	＊1
	2次確認545/5,450 下層　28/5,450 1次本調査　260	確認 本調査	古墳時代 古墳周溝1 平安時代 竪穴建物跡1 時期不明 ピット1，溝1	奈良・平安時代　土師器，須恵器		2確 H10.7 1本 H10.8	
	3次確認本調査 94/210 1	確認 本調査	古墳時代 古墳周溝1 ピット1	古墳時代～奈良・平安時代 土師器	市教委	H13.1	市内13
b	466/3,686.44	確認	縄文時代 陥穴1	縄文土器 奈良・平安時代 土師器，須恵器	市教委	H19.6	市内20
	806	本調査	奈良・平安時代 竪穴建物跡1 掘立柱建物跡2，柵列2，溝1，土坑11			H19.7	＊2
c	74/808.02	確認	なし	古墳時代 土師器	市教委	H24.2	市内24

＊1「千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡　八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」2007(H19)　＊2「千葉県八千代市白筋遺跡b地点発掘調査報告書」2008(H20)



第11図　白筋遺跡ｄ地点トレンチ配置図・土層断面図

社古墳の周溝が検出されている。ｂ地点の調査では，本跡の包蔵地の区域から外れているが，縄文時代の陥穴１基，奈良・平安時代の竪穴建物跡が１軒，掘立柱建物跡２棟，柵列などが検出されている。ｂ地点は区域的にも，また，調査の内容的にも浅間内遺跡との関連が考えられる。ｃ地点の調査では，遺構の検出はなく，土師器の小片がわずかに出土するのみであった。これらの調査成果からみて，包蔵地の範囲内の調査では，全体的に希薄な遺構の検出状況であった。

今回の調査地点は，本跡の東側に位置し，沖塚辺田前低地から60～70ｍほど内陸に入った平坦面に立地する。

調査の方法と経過

発掘調査は北西側の境界線を基準にして，平行に1.5ｍ幅のトレンチを調査区の形状に合わせ設定した。掘削は現況がアスファルト舗装の駐車場であったため，アスファルトにカッターを入れ，アスファルト及び砕石を撤去し，遺構確認面であるソフトローム上面まで重機により80～90cmの幅で表土を除去した。掘削後，遺構の検出確認作業，土層の分析を行った。

この調査で標高の測定は行っていない。

調査は平成29年３月10日から３月23日まで行った。10日金曜日：アスファルト舗装の撤去開始。13日月曜日：アスファルト舗装の撤去完了。アスファルト舗装の撤去後の表土の掘削開始。砕石下約40cmでソフトローム層を確認。14日火曜日：表土掘削継続。15日水曜日：トレンチ掘削完了。16日木曜日：トレンチ内の遺構確認のための清掃開始。耕作のためのトレンチャーによる撹乱を確認。17日金曜日：トレンチの清掃完了。レベル移動。21日火曜日：雨のため中止。22日水曜日：土層実測。重機により埋め戻し作業を開始。23日木曜日：アスファルト以外の埋め戻しが終了し，調査の完了とした。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積 1,615.69㎡に対して，トレンチ５か所，掘削面積194.76㎡，12.05％の面積を掘削し，調査した。

調査区の土層は，現地表面となるアスファルト舗装及び砕石撤去後，30～40cmほど下に遺構確認面としたソフトローム層が検出された。砕石下に盛土の堆積がみられ，旧表土を整地した痕跡も確認できた。

調査の結果，遺構は検出されなかったが，出土遺物が２トレンチから土師器小片１点，須恵器小片１点出土している。

調査のまとめ

今回の調査の結果，遺構はなく，出土遺物もわずかで包蔵地としては希薄な地点であった。そのため，保存協議の対象となる区域はなかった。

図版７　白筋遺跡ｄ地点

１．調査区全景

２．１トレンチ遺構確認面検出状況

３．２トレンチ確認面検出状況

４．４トレンチ確認面検出状況

５．調査風景

６．５トレンチ北面土層

７．トレンチ完掘状況

８．出土遺物

8．菅地ノ台遺跡ｅ地点

遺跡の立地と概要

菅地ノ台遺跡は，市域の中央部，萱田地区に所在する。新川中流域の左岸の台地上に立地する。地形面区分では，大半が下総下位面にあたるが，台地北端部でわずかに千葉段丘面がみられる。

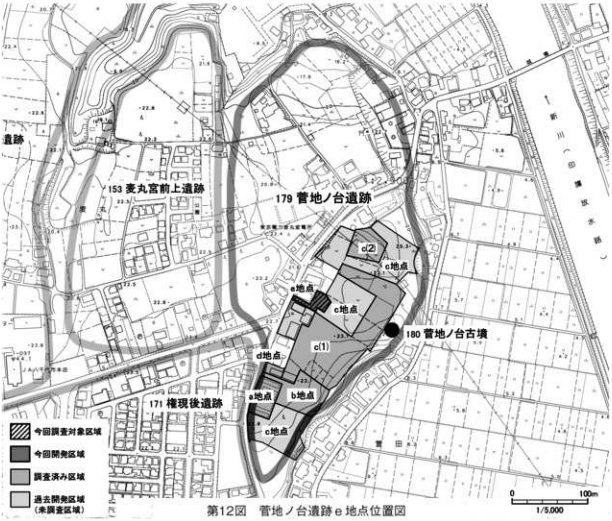
本跡の規模は，東西約250m，南北約600mで，広範な区域を包蔵地としている。標高20mから23mの平坦面であるが，遺跡北端部で16mから20mの傾斜面がみられる。

本跡の過去の調査は４地点あり，弥生時代後期，古墳時代の前期から中期，奈良・平安時代の竪穴建物跡が多数検出されている。遺構密度の高い区域といえる。

今回調査したｅ地点は，本跡の中央部にあたり，ｃ地点の未調査区域に隣接している。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区域の形状にあわせて，任意に方眼を組み，その方眼に沿って２ｍ×４ｍのトレンチを基本に設定した。進入路の部分は，幅の制約のため，1.6ｍ×５ｍとして設定した。掘削は遺構確認面を検出するため人力により行い，その後，ソフトローム上面を遺構確認面とし，重機で表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査で標高の測定は行っていない。



第12図　菅地ノ台遺跡ｅ地点位置図

調査は平成28年７月１日から７月８日まで行われた。１日金曜日:トレンチの設定，人力での掘削開始。４日月曜日：人力での掘削継続。５日火曜日：重機による表土除去作業実施。７日木曜日：トレンチ内遺構確認のため清掃。１ヶ所竪穴建物跡と思われる遺構を確認する。８日金曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

調査の概要

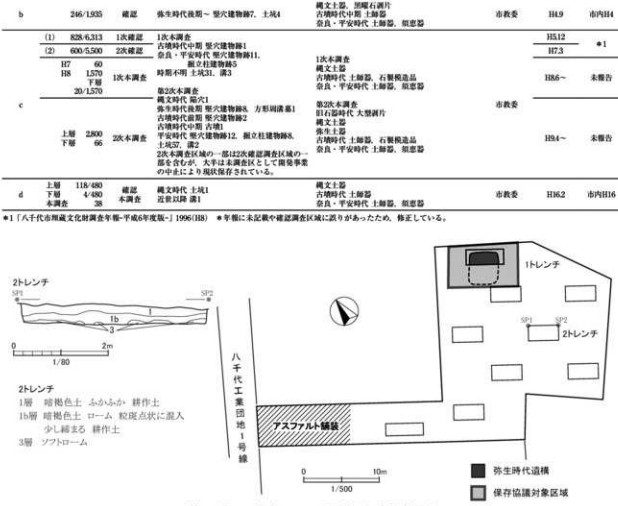
発掘調査は調査対象面積615.86㎡に対して，トレンチ９か所，掘削面積75㎡，全体の12.18％の面積を掘削し，調査した。

調査区の土層は，現地表面から約30cmで遺構確認面とするソフトロームを確認した。地表面からソフトローム面までの大半は，ふかふかの耕作土であった。調査の結果，遺構としては竪穴建物跡を１ヶ所確認した。しかし，遺物は全く検出されなかった。検出された遺構の覆土は，黒褐色土が主体でロームが含

第６表　菅地ノ台遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)		調査機関	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a		187/991	確認	1次本調査			S63.12	市内S63
		40	1次本調査	古墳時代前期 竪穴建物跡1 平安時代 竪穴建物跡1	弥生土器(後期) 古墳時代～奈良・平安時代 土師器，須恵器，	市教委	H1.3	
		875	2次本調査	2次本調査 弥生時代後期 竪穴建物跡2 古墳時代中期 竪穴建物跡4 平安時代 竪穴建物跡2，掘立柱建物跡3	石製模造品(剣型品，有孔円板)， 粗石(浮き子)		H1.9	市内H1
b		246/1,935	確認	弥生時代後期～竪穴建物跡7，土坑4	縄文土器，黒曜石剥片 古墳時代中期 土師器 奈良・平安時代 土師器，須恵器	市教委	H4.9	市内H4
c	(1)	828-6,313	1次確認	1次本調査			H5.12	＊1
	(2)	600/5,500	2次確認	古墳時代中期 竪穴建物跡1 奈良・平安時代 竪穴建物跡11， 掘立柱建物跡5	1次本調査 縄文土器 古墳時代 土師器，石製模造品 奈良・平安時代 土師器，須恵器		H7.3	
		H7　60 H8　1,570 下層 20/1,570	1次本調査	時期不明 土坑31，溝3			H8.6～	未報告
		上層　2,800 下層　66	2次本調査	第2次本調査 縄文時代 竪穴1 弥生時代後期 竪穴建物跡8，方形周溝墓1 古墳時代前期 竪穴建物跡2 古墳時代中期 古墳1 平安時代 竪穴建物跡12，掘立柱建物跡8， 土坑57，溝2 2次本調査区域の一部は2次確認調査区域の一部を含むが，大半は未調査区として開発事業の中止により現状保存されている。	第2次本調査 旧石器時代 大型剥片 縄文土器 弥生土器 古墳時代 土師器，石製模造品 奈良・平安時代 土師器，須恵器	市教委	H9.4～	未報告
d	上層 下層 本調査	118/480 4/480 38	確認 本調査	縄文時代 土坑1 近世以降 溝1	縄文土器 古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器，須恵器	市教委	H16.2	市内H16

＊1「八千代市埋蔵文化財調査年報-平成6年度版-」1996(H8)　＊年報に未記載や確認調査区域に誤りがあったため，修正している。



第13図　ｅ地点トレンチ配置図・土層断面図

まれ，暗褐色土もやや含まれていた。この調査では，遺物は出土していなかったが，覆土の状況から弥生時代後期と推定された。

調査のまとめ

この地点の調査の成果は，遺構密度の濃厚な本跡にあって，弥生時代後期の集落の一部が確認されたことである。そのため，協議対象区域は弥生時代後期の竪穴建物跡が検出された周辺の53㎡とされた。

調査の成果をもとに事業者と協議を行った結果，住宅の建設工事において，遺構保存のための保護層が確保されることが確認されたため，現状保存されることとなった。

図版８　菅地ノ台遺跡ｅ地点

１．調査区全景

２．作業風景

３．２トレンチ北面土層

４．１トレンチ遺構検出状況

５．トレンチ内落ち込み検出状況

６．落ち込み状況

９．逆水遺跡ｉ地点（２次）

遺跡の立地と概要

逆水遺跡は市域の北東部，米本地区に所在する。新川上流域，右岸の台地上に立地する。北に向かって突出するこの舌状台地は，西側を亀井戸谷津，東側を鳥ヶ谷津が開析している。台地の標高は23m前後の下総下位面により形成され，全体にほぼ平坦な地形である。北端の一部に千葉段丘面がみられるが狭い。

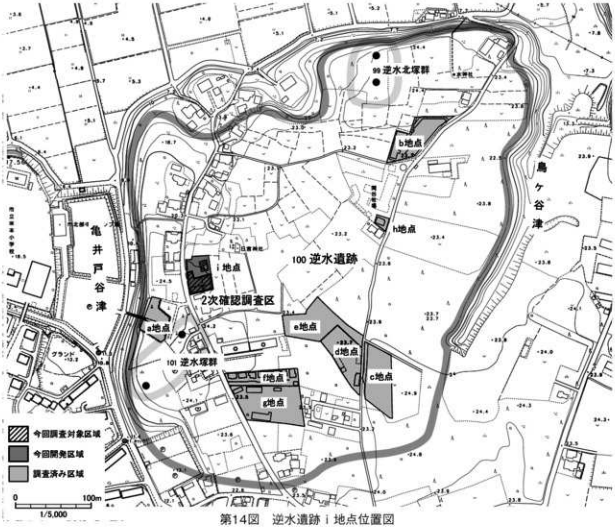
本跡は遺跡の統廃合により，台地全体をひとつの遺跡として認識されている。本跡の規模は，北東－南西方向約700m，北西－南東方向約500mと広範囲である。

本跡の調査は，過去９地点で行われている。本跡の北側の台地先端部付近で調査が行われたｂ地点では，弥生時代中期の方形周溝墓群が検出されている。本跡の南半側で行われたａ,ｃ,ｄ,ｅ地点の４ヶ所の調査では，弥生時代後期の竪穴建物跡が広範囲に散発的に確認されている。その南側に位置するｇ地点では縄文時代中期の竪穴建物跡や陥穴なども確認されており，また違った様相を示している。

今回の調査区は，遺跡の中央部のやや西側の平坦面に立地し，昨年度確認調査し，一部記録保存のための本調査が行われたｉ地点の残存区域である。

調査の方法と経過

調査区は第１次確認調査で既存建物やコンクリートが敷き詰められていたため，当初の調査区域から除外



第14図　逆水遺跡ｉ地点位置図

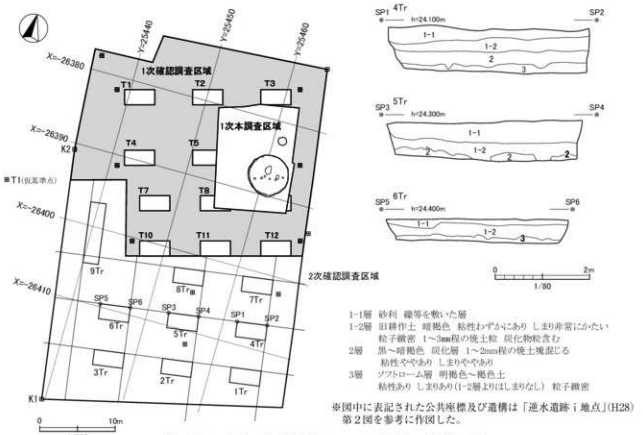
されていた。今回これらの障害物が撤去され，荒地の状況となっていた。発掘調査は調査区の境界杭となっていたK１とK２を基線・基点として方眼を組み，２ｍ×４ｍを基本とするトレンチを設定した。防火水槽・浄化槽設置予定地点には２ｍ×８ｍのトレンチを設定した。

掘削は重機により遺構確認面であるローム上面まで表土を除去した。掘削後，遺構の検出確認作業，土層の分析を行った。この調査での標高は，工事のための仮基準点Ｔ１（X=-26396.807　Y=25427.294　標高24.089）を基準に測定した。

第７表　逆水遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)		調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a *1	146/1,340		確認	逆水西遺跡で調査を実施	縄文土器(早期～中期)	市教委	H8.1	市内H17
	上層 下層	678 20/678	本調査 下層確認	縄文時代 竪穴建物跡1 弥生時代後期 竪穴建物跡4，土坑1 中世 土壙墓17	弥生土器(後期) 平安時代 土師器 水銀滲入，骨片	調査会	H8.4	未報告
b	504/2,414		確認	逆水遺跡で調査を実施 弥生時代中期 方形周溝墓6 時期不明 土坑2 溝1	弥生土器	市教委	H8.11	市内H18
	上層 下層	340 4/340	本調査 下層確認	協議対象区域一部本調査，残区域保存 弥生時代中期 方形周溝墓2 時期不明 溝1	縄文土器 弥生土器 古墳時代 土師器		H8.11	未報告
c	250/2,919		確認	弥生時代後期　竪穴建物跡1	弥生土器(後期)	市教委	H13.8	市内H14
d	448/2,645		確認	弥生時代後期　竪穴建物跡2	縄文土器，弥生土器(後期)	市教委	H14.5	市内H15
e	377/3,012		確認	縄文時代 土坑10 弥生時代後期　竪穴建物跡1	縄文土器(中～後期) 弥生土器(後期)，荒水通宝	市教委	H17.7	市内H18
f	248/1,874.62		確認	なし	弥生土器(後期)，荒水通宝	市教委	H17.10	*2
g	430/4,255		確認	縄文時代 陥穴1，中期 竪穴建物跡1 中世 土坑2	縄文土器(中期)	市教委	H22.11	市内H23
h	25/258.91		確認	なし	なし	市教委	H27.2	市内H27
i	96/692(1,419)	18	確認	弥生時代後期　竪穴建物跡1	縄文土器(後期)	市教委	H27.8	市内H28
	151		本調査	弥生時代後期　竪穴建物跡1 中世 土坑1	縄文土器(後期) 弥生土器(後期)	市教委	H27.11	*3

*１ａ地点は遺跡統合以前の遺跡名「逆水西遺跡」として調査を実施　*２「不特定遺跡発掘調査報告書Ⅴ」2008(H20)　*３「千葉県八千代市 逆水遺跡i地点・桜桃施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」2016(H28)



※図中に表記された公共座標及び遺構は「逆水遺跡ｉ地点」(H28)第２図を参考に作図した。

第15図　ｉ地点2次確認調査トレンチ配置図・土層断面図

調査は平成28年７月11日から７月15日まで実施した。７月11日月曜日：調査区の環境整備のため草刈を実施，任意の杭打ち，トレンチ設定。12日火曜日：重機による掘削実施。土層の観察・分層。13日水曜日：遺構確認のための精査。14日木曜日：Ｔ１を基準点としてレベル移動。土層実測。15日金曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は調査対象区域727㎡に対して，トレンチ９か所，掘削面積80㎡，約11.00％の面積を掘削し調査した。

調査区の土層は，現地表面より１ｍから50㎝ほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。ローム面の検出が東側で深く，西側で浅くなっていた。地形の傾斜が想定される。調査の結果，遺構・遺物の検出はみられなかった。

調査のまとめ

調査区ｉ地点では，第１次確認調査区域で弥生時代後期の竪穴建物跡が１軒調査されており，周辺にも展開する集落の一部が検出されるものと想定された。しかし，今回の第２次確認調査区域では，遺構・遺物の検出はみられず，保存協議の対象とすべき区域はなかった。

図版９　逆水遺跡ｉ地点（２次）

１．調査区全景及びトレンチ掘削状況

２．５トレンチ北面土層

３．４トレンチ北面土層

４．５トレンチ確認面検出状況

10. 作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点

遺跡の立地と概要

作山遺跡は市域の北部，小池地区に所在する。神崎川の下流域で右岸から流入する鈴身川との合流地点の南岸で，標高20mから22mの台地上に立地する。地形面区分では下総下位面にあたる。本跡の規模は，東西約480m，南北約820mの広範囲な区域を包蔵地としている。昭和47年「八千代市遺跡分布調査概要」（八千代市教育委員会）によると，小池寺山遺跡（当時№32）が該当するようだ。この中で土師器の散布と板碑８基が出土したと報告されている。昭和57年「八千代の遺跡」で台地先端部分を作山遺跡とし，南側に隣接して庚申前遺跡（旧市№４）が別の遺跡として認識された。その後，平成９年「千葉県埋蔵文化財分布地図（1）」（（財）千葉県文化財センター）により，作山遺跡に両遺跡が統合された。

作山塚群は昭和47年の「分布調査概要」で，雑木林の中に塚２基が所在するとして新たに小池遺跡（当時№31）が初めて認識された。昭和58年及び平成９年，中近世の塚２基として作山塚群に引き継がれた。

作山遺跡の区域内の調査は，過去６地点で行われている。ｂ，ｆの２地点では遺構・遺物は希薄であったが，他の地点からは，中近世の遺構・遺物の検出がみられた。特に広範囲な調査が行われたｄ地点では弥生時代後期を中心として古墳時代前・後期，奈良・平安時代の竪穴建物跡が検出されている。

作山塚群の調査は，平成20年，作山遺跡ｅ地点の調査時において，塚３基が新たに確認され，同塚群に加えられた。平成22年新たに確認された３基の内１基が調査の対象外とされ，２基の調査が行われた。

今回の調査区域は，作山遺跡の東端に位置する。また，塚群は昭和47年当初から確認されていた２基と思われる塚が調査対象となった。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状にあわせて，おおむね南北方向に10m方眼を組み，方眼に合わせて２m×５mのトレンチを設定した。現況で確認されていた２基の塚には周溝等の地下の構造を確認するために塚に対して任意な方向で任意の幅でトレンチを設定した。

掘削はローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。こ

第８表　作山遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	244.5/2,323.61	確認	中世溝状遺構2条，火葬墓1基，土坑3基	弥生土器(後期) 中近世 磁器片	市教委	H13.9	市内H14
	450	本調査	墓域群，古代周溝遺構1基 (不特定遺跡調査)	中世 磁器，古銭(開元通宝)		H14.1～	＊1
b	24/228.17	確認	なし	なし	市教委	H17.10	市内H18
c	250/1,920	確認	近現代 溝1	奈良・平安時代 土師器，須恵器	市教委	H19.4	市内H20
d	2,256/25,800	確認	弥生時代後期 竪穴建物跡14 古墳時代前期 竪穴建物跡1 古墳時代後期 竪穴建物跡1 奈良・平安時代 竪穴建物跡1，土坑1 中世・戦国時代 土坑3	縄文土器 弥生土器 古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器	市教委	H20.8	市内H21
	16	1次本調査	中世 土坑1	なし	市教委	H21.11～	＊2
	163	2次本調査	古墳時代前期 竪穴建物跡1，土坑1 後期 竪穴建物跡1 奈良・平安時代 土坑1 (不特定遺跡調査)	古墳時代 土師器	市教委	H21.11～	未報告
e	860/6,966.19	確認	近世 塚3基 (不特定遺跡調査)	弥生土器 奈良・平安時代 土師器	市教委	H20.10	未報告
f	232/2,280	確認	なし	古墳時代 土師器，中近世 陶磁器	市教委	H20.12	市内H21

第９表　作山塚群の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
	125	本調査	作山遺跡e地点で確認された3基の塚が対象となったが，3基は開発区域から除外された。 近世　塚2基	奈良・平安時代 土師器	市教委	H22.1～	＊3

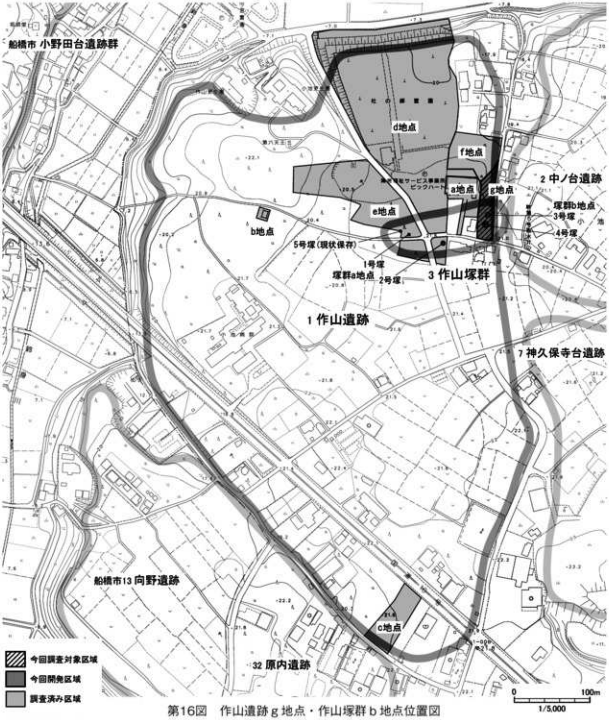
＊1「千葉県八千代市 作山遺跡発掘調査報告書」2005(H15)　＊2「千葉県八千代市作山遺跡d地点発掘調査報告書」2010(H22)　＊3「千葉県八千代市 作山塚群 1号塚・2号塚」2011(H23)

の調査で標高の測定は行っていない。

調査は平成28年７月20日から８月１日まで行われた。20日水曜日：下草刈りなど環境整備を行う。21日木曜日：トレンチ設定。22日金曜日：トレンチ設定。25日月曜日：重機による表土剥ぎ実施。遺構確認のための清掃作業を開始。26日火曜日：トレンチ掘削終了。清掃継続。28日木曜日：清掃。塚の測量。８月１日月曜日：埋め戻しを実施し，調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積 1,750.09㎡に対して，トレンチ20か所，掘削面積173㎡，全体の9.89％の面積を



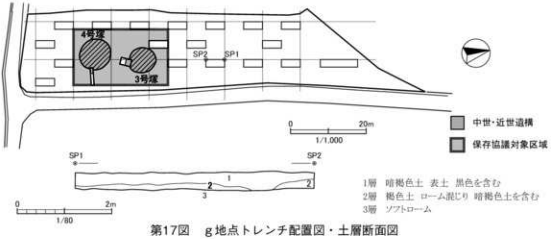
第16図　作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点位置図

掘削し，調査した。

調査区はほぼ平坦で，現地表面より30～40cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。表土以下，自然堆積が検出されている。この調査の結果，現況で確認されていた塚２基以外，遺構・遺物は確認されなかった。塚に対して設定されたトレンチから周溝らしき落込みが検出されている。

調査のまとめ

今回の調査の結果，塚以外の遺構・遺物の検出はなく，新たな成果は得られなかった。保存協議対象区域として，２基の塚の周辺375㎡が対象とされた。



第17図　ｇ地点トレンチ配置図・土層断面図

図版10　作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点

１．調査区全景

２．トレンチ掘削状況

３．３号塚トレンチ掘削状況

４．４号塚トレンチ掘削状況

事業者との協議の結果，事業継続のため当該区域に対して，記録保存のための本調査を実施することとなった。調査は，平成28年10月４日から10月28日まで行われた。報告書は平成29年３月31日に刊行されている。

11．新林遺跡ｆ地点

遺跡の立地と概要

新林遺跡は市域の東部南端，上高野地区に所在する。佐倉市との境を流れる高野川（又は小竹川）の上流，上谷津の左岸の標高25mから26mの台地平坦面に立地する。西側からは新川上流域で，沖塚辺田前低地へ流れる黒沢谷津が迫る。地形区分は下総上位面にあたる。

本跡は東西二つの区域に分かれている。現在とは異なるが，昭和58年に確認された時点から二つの区域に分離されていた。本跡は南北約250m，東西約450mの範囲にある。

ｆ地点は東側の区域にあり，区域の南端であった。本跡の調査は５地点で行われているが，すべて西側の区域であり，東側での範囲内では初めての調査となった。

第10表　新林遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	841/5,665.77 本調査 280	確認 本調査	近世 陥穴8，溝1	なし	調査会	H6.4～	＊1
b	1,150/15,500	確認	縄文時代前期 土坑1	縄文土器	市教委	H6.12	市内H6
c	420.5/3,900	1次確認	縄文時代中期 竪穴遺物群2，土坑42	縄文土器(中期 加曽利E期中心)，打製石斧，石錘	市教委	H9.7	市内H9
	479	1次本調査	時期不明 溝1		調査会	H9.9	＊2
	74/722	2次確認	なし	なし	市教委	H10.8	市内H10
d	530/5,300	1次確認			市教委	H13.2	市内H13
	780/14,400	2次確認	旧石器時代ブロック1 縄文時代 竪穴遺物群11，竪穴状遺構4，陥穴5，ファイヤーピット3，土坑109	旧石器時代 礫石刃 縄文土器(前期中心)，石錘等，土製品等	調査会	H13.3	未報告
	2,860 下層　27/2860	本調査			調査会	H13.7～	＊3
e	288/2,068.13	確認	縄文時代 陥穴1	なし	市教委	H13.4	市内H14
	231	本調査	近世 しし穴5，溝1				

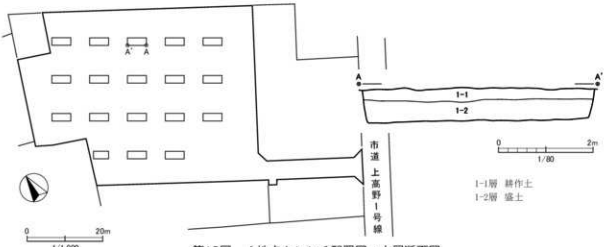
＊1「二重堀遺跡・新林遺跡」2007(H19)　＊2「千葉県八千代市 新林遺跡c地点発掘調査報告書-共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-」2007(H19)　＊3「千葉県八千代市 黒沢池上・新林遺跡発掘調査報告書　-土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査-」2003(H15)

第18図　新林遺跡ｆ・ｇ地点位置図

調査の方法と経過

発掘調査は全く任意に10m方眼を組み，10m単位に２m×５mのトレンチを基本に設定した。掘削は遺構確認面を確認するため人力により行い，その後，遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査で標高の測定は行っていない。

調査は平成28年８月12日から８月19日まで行われた。12日金曜日:トレンチの設定。人力での掘削開始。15日月曜日：重機による表土除去作業開始。16日火曜日：掘削終了。遺構等確認のため清掃作業。19日金曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。



第19図　ｆ地点トレンチ配置図・土層断面図

図版11　新林遺跡ｆ地点

1．調査区全景

2．トレンチ掘削状況

3．遺構確認面検出状況

4．トレンチ南面SP１～SP２土層

調査の概要

発掘調査は調査対象面積2,647.34㎡に対して，トレンチ18か所，掘削面積178㎡，全体の6.72％の面積を掘削し調査した。

調査区はほぼ平坦な地形を呈していたが，土層観察の結果，地表以下，厚く盛土が行われていた。宅地開発後に地耐力を保持する必要から，70cm以上の掘削調査ができなかったため，盛土の下の状況は確認できなかった。この調査の結果，遺構・遺物はなく，地山も確認できなかった。

調査のまとめ

この地点の調査では，遺構・遺物は検出されず，保存協議の対象とすべき区域はなかった。

12．新林遺跡ｇ地点

遺跡の立地と概要

ｇ地点は西側の区域の中央付近に位置する。

本跡の西側区域の過去の調査は５地点ある。上谷津側に面するａ地点で陥穴８基，e地点で縄文時代早期の陥穴１基，黒沢谷津側に面するb地点で縄文時代前期の土坑１基，ｃ地点で縄文時代中期の竪穴建物跡が２軒，ｄ地点で縄文時代前期の竪穴建物跡が11軒など，各地点で縄文時代の各期の遺構が散見されていた。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区域の形状にあわせ，任意に２ｍ幅のトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を確認するため，人力により行い，その後，遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査は，都市計画図で標高の明らかな地点を基準に測定した。

調査は平成29年２月20日から２月23日まで行われた。20日月曜日：トレンチの設定，人力での掘削開始。21日火曜日：重機による表土除去作業開始。遺構検出作業，土層分析，実測等記録作業。22日水曜日：土層実測，平面図実測。23日木曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

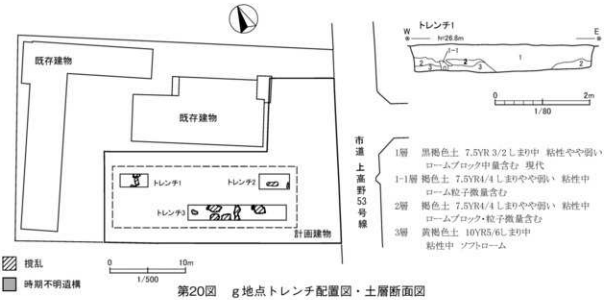
調査の概要

発掘調査は調査対象面積 411.23㎡に対して，トレンチ３か所，掘削面積42㎡，全体の10.21％の面積を掘削し調査した。

調査区はほぼ平坦で，撹乱を相当受けているが，地表面から50cm前後でソフトローム層が検出された。この調査の結果，遺構・遺物は検出されていない。

調査のまとめ

この調査での結果，遺構・遺物は検出されず，保存協議の対象とすべき区域はなかった。東と西の両側から開析された谷津際にみられる二つの包蔵地の中間に位置し，空白地帯の一部とみられる。



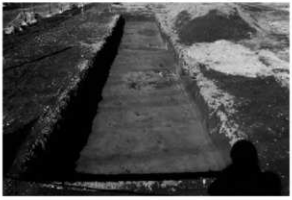
第20図　ｇ地点トレンチ配置図・土層断面図

図版12　新林遺跡ｇ地点

1．調査区全景

2．２トレンチ北面土層

3．２トレンチ遺構確認面検出状況



4．３トレンチ遺構確認面検出状況

13. 平戸台遺跡ｃ地点

遺跡の立地と概要

平戸台遺跡は市域の北部，島田台地区の最北部 平戸台に所在する。新川上流域の左岸，間見穴遺跡の台地と道地遺跡の台地に挟まれ，新川からやや奥まった標高20mから22mの台地平坦面に立地する。地形面区分では下総下位面に区分される。規模は南北方向約250m，東西方向約400mの区域を包蔵地としている。現在の遺跡範囲は，昭和58年の「八千代の遺跡」で平戸台遺跡と平戸台南遺跡（旧市№26）二つの遺跡として認識されていたが，地形的に区分する根拠が薄弱だったため，平戸台南遺跡の一部を分離して平戸台遺跡として統合された。

本跡の調査は，昭和53年，送電線鉄塔建設工事を原因としたａ地点３か所の調査と昭和55年，同様に送電線鉄塔建設工事としてｂ地点２か所の調査が行われている。ａ地点３か所の成果は明らかではないが，b地点２か所の内のｂ2地点では，古墳時代の竪穴建物跡が５軒検出されているが，現在の遺跡区分では間見穴遺跡に含まれている。

今回の調査地点は，本跡の区域内の中央付近に位置する。

第11表　平戸台遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a1	＊1　~57.76	確認	不明	不明	調査会	S53.11	＊1
a2	＊1　~57.76	確認	不明	不明		S53.11	
a3	＊1　~179.56	確認	不明	不明		S53.11	
b1	b1-154 b2-400 /1,100	確認	時期不明 土坑1，溝3	縄文土器(加曽利E) 土師器，須恵器	調査会 （送電線所有）	S55.9	未報告 ＊2
b2		確認 本調査	古墳時代か竪穴建物跡5，溝3	縄文土器 土師器，滑石製模造品，土玉		S55.10	

＊1『東京電力送電鉄塔建設事業に伴う発掘調査報告書』1980（S55）報告書には調査地点・調査面積等の詳細な記述がないので，調査概要については，当時の発掘届で確認した。a1地点は当時の工事図面鉄塔No.9，a2地点はNo.9-1平戸口遺跡（当時の書類記載のまま），a3地点は鉄塔No.10，平戸西の上遺跡として調査が行われている。しかし，終了届が確認できなかったので，調査内容については不明である。

＊2未報告のため，終了届で調査内容を確認した。b1地点は当時の工事図面鉄塔No.182-1（第Ⅰ地点），b2地点は鉄No.183（第Ⅱ地点）平戸台遺跡で調査が実施された。詳細は不明である。b2地点は現在の遺跡区分では，間見穴遺跡に入る。

第21図　平戸台遺跡ｃ地点位置図

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状に合わせ，任意な方向で10m方眼を組み，方眼に沿って２m×５mのトレンチを設定することを基本とした。掘削は遺構確認面であるソフトローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後，遺構の検出確認作業，土層の分析を行った。この調査で標高の測定は行っていない。

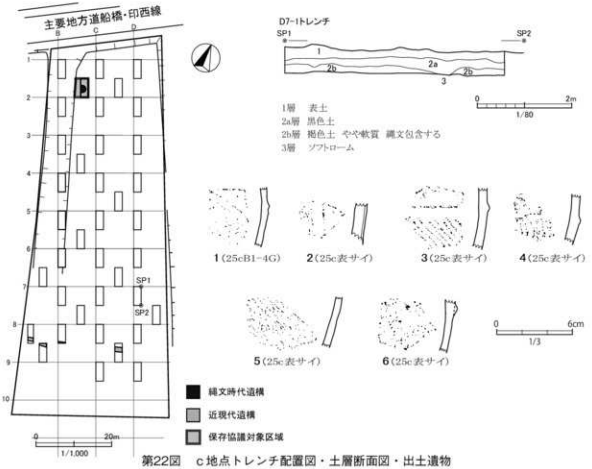
調査は平成28年９月12日から９月26日まで行われた。12日月曜日：トレンチ設定。13日火曜日：重機による表土除去作業。14日水曜日：表土除去作業完了。トレンチ内の遺構の精査を行う。15日木曜日：トレンチ精査。16日金曜日：トレンチ内から遺構確認。遺物回収。調査区域内から新しい溝状遺構を検出。26日月曜日：重機により埋め戻し作業を実施し，調査を完了。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積 3,439㎡に対して，トレンチ38か所，掘削面積375㎡，10.90％の面積を掘削し，調査した。

調査区の土層は，現地表面より30cmから60cmで遺構確認面としたソフトローム層を検出した。表土以下自然堆積土が確認された。

調査の結果，遺構としては，調査区北端のB1-4トレンチ内から土坑の落ち込みが検出された。同じトレンチから縄文時代中期の土器片が３点出土している。今回の調査での出土遺物は総数26点であった。その内，表採が21点と大半を占めている。内訳は縄文時代中期４点，同後期５点他11点，土師器３点，陶器片３点などであった。



第22図　ｃ地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物

調査のまとめ

今回の調査区域における調査の結果，縄文時代中期の土坑が１基検出されている。保存協議対象区域として，検出された土坑の周辺16㎡が対象となった。

過去の調査の内容が明らかでない部分が多く，本跡の全体像は判然としていない。今回の調査によっても検出された遺構が縄文時代中期の土坑１基のみで，実態を明らかにすることはできなかった。

これらの調査成果を基に開発事業者と協議をした結果，事業を継続するとの意向であったため，発掘調査による記録保存を行うこととなった。平成28年12月６日から同年12月９日まで本調査が実施された。報告書は平成29年３月15日に刊行された。

図版13　平戸台遺跡ｃ地点

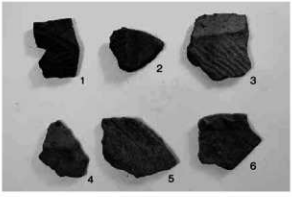
１．調査区全景及び調査風景

２．D7-1トレンチ東面土層

３．C5-1トレンチ落ち込み検出状況

４．B1-4トレンチ遺構検出状況

５．C8-4トレンチ落ち込み検出状況



６．出土遺物

14. 殿内遺跡 e 地点

遺跡の立地と概要

殿内遺跡は市域の中央部南側，村上地区に所在する。新川中流域に，右岸から流れ込む上相女谷津を約500m遡った左岸のさらに小さな谷津の奥に形成され，北側に突出した舌状台地上に立地する。この台地は河岸段丘の下総上位面で形成され，標高26mから27mのほぼ平坦な地形を呈している。

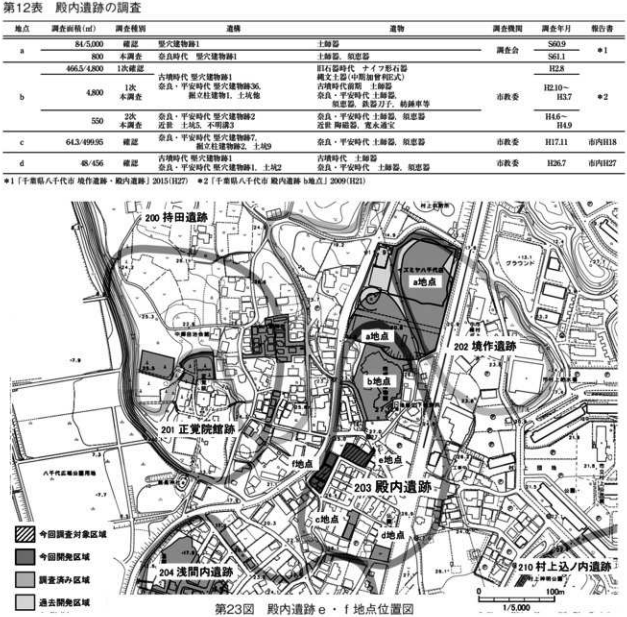
遺跡の規模は，南北方向約250m，東西方向約150mと限定されているが，本跡の周辺には持田遺跡（市№200）・境作遺跡（市№202）・浅間内遺跡（市№204）・村上込の内遺跡（市№210）など，遺構密度の高い遺跡群に囲まれている。

本跡の調査は，昭和60年，大規模商業施設建設に先行して実施されたａ地点の調査と平成２年から４年にかけて行われた２度にわたるｂ地点の本調査により，奈良・平安時代を中心とする遺跡であることが明らかとなってきた。また，平成17年には，ｂ地点から南に約120m離れたｃ地点で確認調査が行われ，奈良・平安時代の遺構が検出されている。さらに，本跡域南端でｄ地点の調査が行われ，古墳時代及び奈良・平

第12表　殿内遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	84/5,000	確認	竪穴建物跡1	土師器	調査会	S60.9	＊1
	800	本調査	奈良時代　竪穴建物跡1	土師器，須恵器		S61.1	
b	466.5/4,800	1次確認		旧石器時代　ナイフ形石器	市教委	H2.8	＊2
	4,800	1次 本調査	古墳時代 竪穴建物跡1 奈良・平安時代 竪穴建物跡36，掘立柱建物1，土坑他	縄文土器(中期加曽利E式) 古墳時代前期　土師器 奈良・平安時代 土師器，須恵器，鉄製刀子，鉄製車等		H2.10～ H3.7	
	550	2次 本調査	奈良・平安時代 竪穴建物跡2 近世　土坑5，不明溝3	奈良・平安時代 土師器，須恵器 近世 陶磁器，荒木遺宝		H4.6～ H4.9	
c	64.3/499.95	確認	奈良・平安時代 竪穴建物跡7，掘立柱建物跡2，土坑9	奈良・平安時代 土師器，須恵器	市教委	H17.11	市内H18
d	48/456	確認	古墳時代 竪穴建物跡1 奈良・平安時代 竪穴建物跡1，土坑2	古墳時代　土師器 奈良・平安時代　土師器，須恵器	市教委	H26.7	市内H27

＊1「千葉県八千代市 境作遺跡・殿内遺跡」2015(H27)　＊2「千葉県八千代市 殿内遺跡 b地点」2009(H21)



第23図　殿内遺跡ｅ・ｆ地点位置図

安時代の竪穴建物跡が検出され，遺跡の広がりが確認されるとともに，南側に隣接する浅間内遺跡と間断なくつながっていることが明らかとなってきた。

今回調査したｅ地点は，本跡域の中央に位置し，ｂ地点とc地点の中間にあたる。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区域の形状にあわせて，掘削が可能な地点に任意にトレンチを設定した。掘削は遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。この調査で標高の測定は行っていない。

調査は平成28年10月５日から10月14日まで行われた。５日水曜日：環境整備。６日木曜日：トレンチの設定。７日金曜日：重機による表土除去作業開始，完了。12日水曜日：実測等記録作業。遺構検出作業。14日金曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

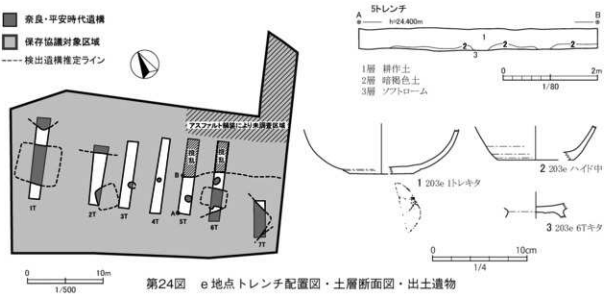
調査の概要

発掘調査は調査対象面積 706.57㎡に対して，トレンチ７か所，掘削面積76㎡，全体の10.76％の面積を掘削し調査した。

調査区は平坦な地形で区域内に撹乱もみられた。調査区の土層は，厚い耕作土が表土を形成し，調査区全体では30～50cmでソフトローム層に達した。暗褐色土の自然堆積も部分的にわずかにみられた。この調査の結果としては，奈良・平安時代の竪穴建物跡が８軒，掘立柱建物跡が４棟など検出されている。また，出土遺物は総数42点で，主に奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土している。いずれも，トレンチからの出土で，１トレンチで土師器11点，須恵器１点，礫１点，２トレンチで土師器６点，３トレンチで土師器３点，６トレンチで土師器５点，須恵器２点，礫１点，７トレンチで土師器６点，須恵器２点と調査区全体にまんべんなく出土した。

調査のまとめ

調査の成果，本跡における奈良･平安時代の竪穴建物跡８軒，掘立柱建物跡が４棟など数多く検出され，



第24図　ｅ地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物

本地点を含め，密度の濃厚な遺跡であることがあらためて明らかとなった。そのため，保存協議の対象とすべき区域は全域の706.57㎡となった。

調査の成果をもとに，事業者との協議を行った結果，事業継続のため当該区域に対して，記録保存のための本調査を実施することとなった。

本調査は平成29年２月20日から同年３月29日まで第１期として行われ，継続して翌年度となる平成29年４月25日から同年７月７日まで第２期を実施し，記録保存を完了している。

図版14　殿内遺跡ｅ地点

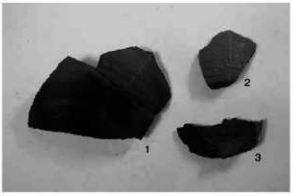
1．調査区全景

2．１トレンチ遺構検出状況

3．４トレンチ遺構検出状況

4．６トレンチ遺構検出状況

5．７トレンチ遺構検出状況



6．出土遺物

15. 殿内遺跡ｆ地点

遺跡の立地と概要

ｆ地点は，e地点の南西側に隣接し，本跡域の西端にあたる。調査区の現況は，ほぼ平坦な地形ではあるが，西側から入り込む谷津が本地点の西側まで迫り，台地の縁に位置し，調査区もわずかに傾斜する。

調査の方法と経過

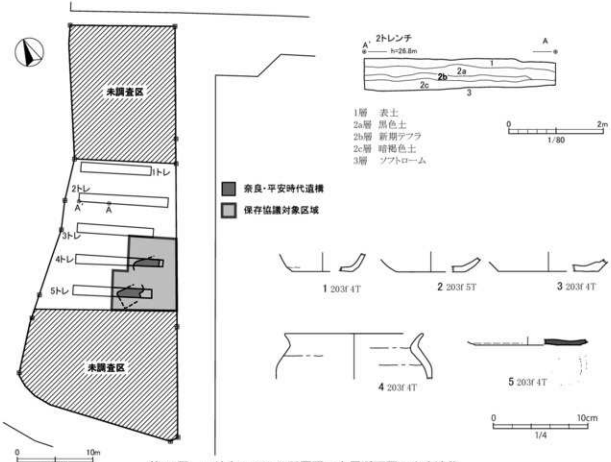
発掘調査は調査区域内に既存建物が残存していたため，開発区域の中央部に残存していた掘削可能な畑地が今回の確認調査の対象となった。対象区域の形状にあわせて，任意に２ｍ幅のトレンチを全体に均一に設定した。掘削は遺構確認面を検出するため人力により行い，その後，遺構確認面まで重機で表土を除去した。掘削後，遺構の検出作業，土層の分析を行った。

この調査での標高は，都市計画図で標高の明らかな地点（26.4m）を基準に計測した。

調査は平成28年12月13日から12月16日まで行われた。13日火曜日：草刈り等環境整備。トレンチの設定，人力での掘削開始。14日水曜日：重機による表土除去作業開始。15日木曜日：遺構確認のための精査。土層分析，実測等記録。遺物取り上げ。16日金曜日：重機により埋め戻しを行い，調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は今回の調査対象面積 300㎡に対して，トレンチ５か所，掘削面積42㎡，全体の14％の面積を掘削し，調査した。



第25図　ｆ地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物

調査区の土層は，60cmほどでソフトローム層を確認し，その間は自然堆積が明瞭に検出されている。調査の結果，奈良・平安時代の竪穴建物跡が２軒検出された。出土遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土している。総数は25点で，４トレンチで土師器14点，須恵器５点，陶器１点，５トレンチで土師器４点であった。遺構及び出土遺物は調査区域の南側に集中する傾向を示した。

調査のまとめ

この地点の調査で奈良・平安時代の竪穴建物跡が２軒検出されたが，同時に空白地帯もあり，遺構の展開に偏りがみられた。保存協議の対象とすべき範囲を調査区南側の65㎡に限定された。

調査の成果をもとに，事業者と協議の結果，記録保存のための本調査を実施することとなった。調査は平成29年７月13日から同年８月23日まで行われた。

図版15　殿内遺跡ｆ地点

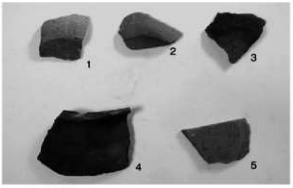
1．調査区全景

2．トレンチ掘削状況

3．２トレンチ南面A ～ A′土層

4．４トレンチ遺構検出状況

5．５トレンチ遺構検出状況



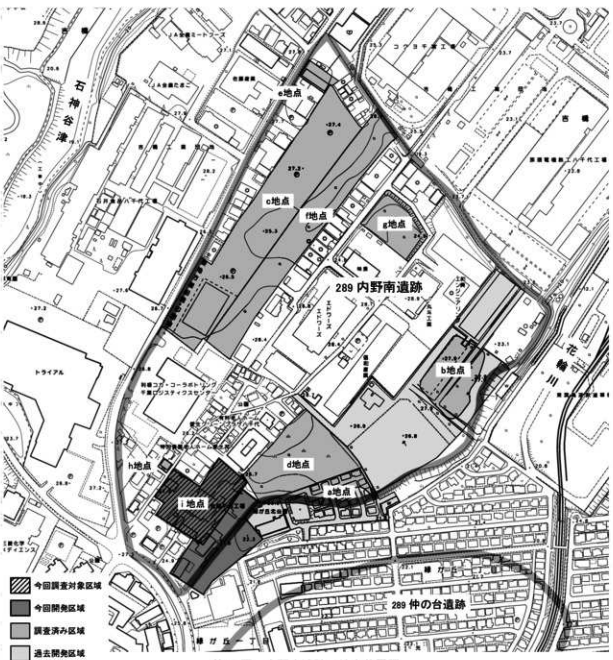
6．出土遺物

16. 内野南遺跡ｉ地点

遺跡の立地と概要

内野南遺跡は市域の西部，吉橋地区に所在する。桑納川下流域の右岸で花輪川と石神谷津が開析されることにより形成された南北に細長い舌状台地の最奥部，花輪川に面する標高26mから28mの台地上に立地する。現在は工業団地の造成により，旧来の地形が分からなくなっているが，花輪川の中流域の左岸に合流する谷津が南に延び，本跡ｆ地点とｇ地点の間を中央付近まで入り込んでいたと思われる。この台地の地形面は下総上位面で形成されている。本跡の規模は，北東－南西方向で約650m，北西－南東方向で最大幅約450mである。

本跡は過去に８か所調査が行われている。遺跡の様相が徐々に明らかになりつつあり，現時点では，遺跡の主体が縄文時代早期から前期の炉穴や竪穴建物跡を伴う集落や，陥穴などであり，ａ地点とｄ地点が



第26図　内野南遺跡ｉ地点位置図

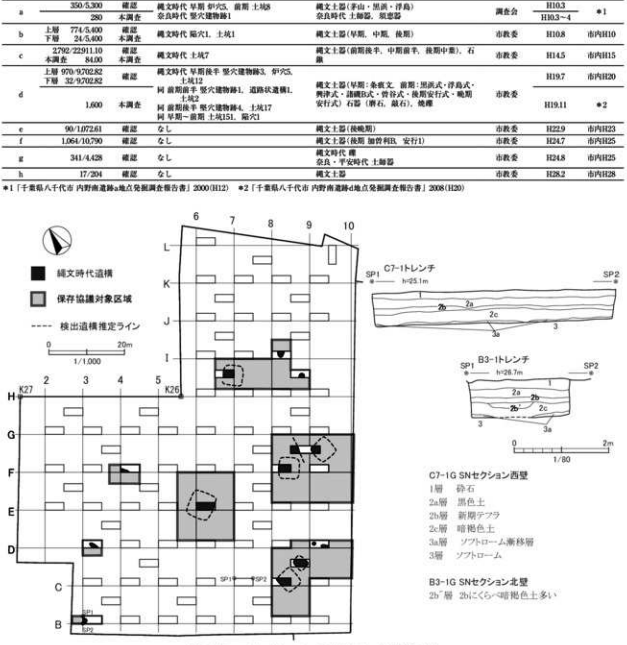
その中心となっている。本跡中央部での遺構密度は希薄で，b地点やe地点でわずかに土坑などの遺構が確認され，花輪川に面する台地の際や本跡中央に入り込む谷津の際で遺構が検出される傾向が確認できる。

今回の開発予定区域は，本跡の南端に位置する。花輪川が本地点のやや上流で東西に分岐し，その西側の谷津に面しており，台地平坦面から傾斜面に立地する。a地点とd地点の南端から浅い谷津が入り込み，工事予定区域は工場跡地で土地の改変がかなり激しく行われているため，旧地形は判然としないが，区域の一部は，谷津または傾斜地であることが想定された。そのため，谷津側の一部が包蔵地の範囲外と判断され，調査対象区域から除外された。そのためｉ地点の調査対象区域は，谷津に面し，東側に向かって緩い傾斜地約6,720㎡の範囲と判断された。

第13表　内野南遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	350/5,300	確認	縄文時代 早期 炉穴5，前期 土坑8	縄文土器(茅山・黒浜・浮島)	調査会	H10.3	＊1
	280	本調査	奈良時代 竪穴建物跡1	奈良時代 土師器，須恵器		H10.3～4	
b	上層 774/5,400 下層 24/5,400	確認 本調査	縄文時代 陥穴1，土坑1	縄文土器(早期，中期，後期)	市教委	H10.8	市内H10
c	2792/22911.10 本調査 84.00	確認 本調査	縄文時代 土坑7	縄文土器(前期後半，中期前半，後期中葉)，石器	市教委	H14.5	市内H15
d	上層 970/9,702.82 下層 32/9,702.82	確認	縄文時代 早期後半 竪穴建物跡3，炉穴5，土坑12	縄文土器(早期：条痕文，前期：黒浜式・浮島式・興津式・諸磯b式・曽谷式・後期安行式・晩期安行式)，石器(磨石，敲石)，焼骨	市教委	H19.7	市内H20
	1,600	本調査	同 前期前半 竪穴建物跡1，道路状遺構1，土坑2 同 前期後半 竪穴建物跡4，土坑17 同 早期～前期 土坑151，陥穴1			H19.11	＊2
e	90/1,072.61	確認	なし	縄文土器(後晩期)	市教委	H22.9	市内H23
f	1,064/10,790	確認	なし	縄文土器(後期 加曽利B，安行1)	市教委	H24.7	市内H25
g	341/4,428	確認	なし	縄文時代 縄 奈良・平安時代 土師器	市教委	H24.8	市内H25
h	17/204	確認	なし	縄文土器	市教委	H28.2	市内H28

＊1「千葉県八千代市 内野南遺跡a地点発掘調査報告書」2000(H12)　＊2「千葉県八千代市 内野南遺跡d地点発掘調査報告書」2008(H20)



第27図　ｉ地点トレンチ配置図・土層断面図

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状に合わせ，境界k27と境界k26を基線にして10m方眼を組み，方眼に沿って２ｍ×５ｍのトレンチを５ｍ間隔で設定することを基本とした。掘削は遺構確認面であるソフトローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後，遺構の検出確認作業，土層の分析を行った。

この調査での標高は，調査区付近で都市計画図上の標高の明らかな地点（27.3ｍ）を基準に計測した。

調査は平成28年12月19日から翌平成29年１月12日まで行われた。19日月曜日：トレンチの設定。20日火曜日：重機による表土除去作業。トレンチ内より３か所遺構検出。～21日水曜日：表土除去継続。トレンチ内遺構の精査を開始する。～26日月曜日：重機による掘削終了。遺構精査継続中。28日水曜日：遺構精査継続中。平成29年１月５日木曜日：遺構精査終了。６日金曜日：サブトレによる遺構確認を行う。遺構内からの遺物取り上げを行う。10日火曜日～12日木曜日：重機により埋め戻し作業を実施し，調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積6,720㎡に対して，トレンチ84か所，掘削面積680㎡，10.12％の面積を掘削し，調査した。

調査区の地形は，北東側から入り込む花輪川に面する平坦面から傾斜地を含む区域であった。調査区の土層は，工場団地造成により地表面に砕石が敷き詰められていたが，この地表面の砕石より下層には，自然堆積の残存が確認された。調査区西側に面する道路側のトレンチでは，現地表面より40cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出され，東側に行くにしたがって深くなり，東端では深いところで100cmを超えていた。

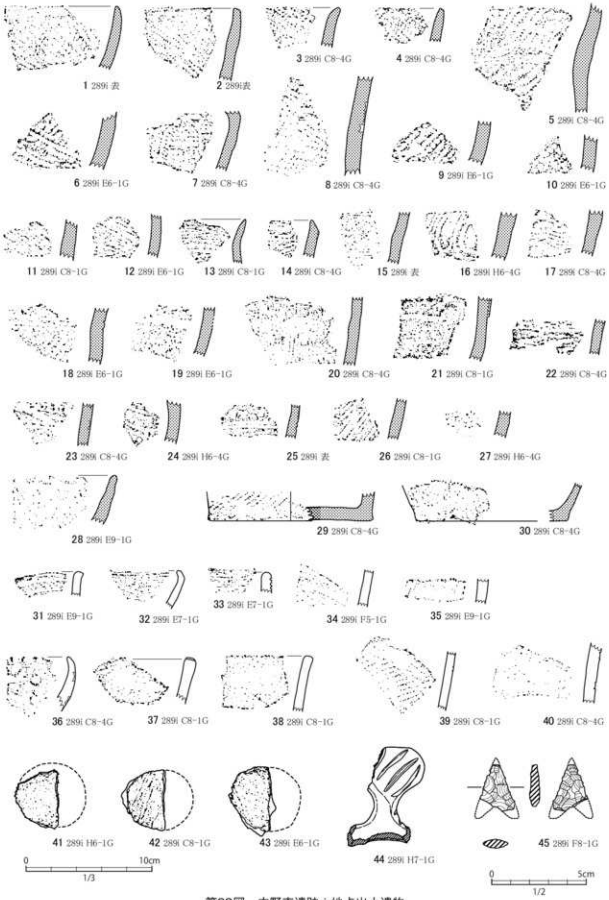
調査の結果，縄文時代前期と推定される竪穴建物跡が７軒，縄文時代の土坑７基が確認されている。また，出土遺物では，縄文土器（前期～後期）や石器などが出土している。出土遺物の総数は，310点を数える。縄文土器が大半で，300点を超え，その他の時代の遺物は確認できなかった。土器以外で出土した遺物は，石器（石鏃）１点（第28図44），礫７点が出土している。

縄文土器の内容は，前期黒浜期が280点以上あり，前期末から中期初頭や後期の土器も若干みられた。黒浜期の出土傾向はC8-1トレンチから93点，C8-4トレンチから79点，E6-1トレンチから23点，H6-4トレンチから14点などでまとまって出土していた。これらの地点は，竪穴建物跡が確認されている区域とほぼ合致する。その他に円盤型土製品の破片が３点（第28図41～43），把手の一部とみられる土器（第28図44）が確認できた。円盤型土製品はいずれも，土器片を整形して作られ，42，43の土器の胎土には，繊維が混入し，表面には縄文が施文されている。この２点は前期黒浜期に該当する。

調査のまとめ

調査の結果，縄文時代の竪穴建物跡７軒，土坑７基が検出された。出土遺物では縄文時代前期前半の黒浜期の土器の出土が大半で，出土地点も各建物跡周辺から集中して出土しており，当該時期の遺構と判断された。そのため，保存協議の対象とすべき区域を７か所，合計面積1,070㎡に限定することとなった。

これらの調査成果を基に開発事業者と協議をした結果，事業を継続するとの意向であったため，発掘調査による記録保存を行うこととなった。平成29年２月20日から同年４月６日まで本調査が実施された。



第28図　内野南遺跡ⅰ地点出土遺物

図版16　内野南遺跡ｉ地点（1）

1．調査区全景

2．トレンチ掘削状況

3．C7-1トレンチ北面土層

4．B3-1トレンチ西面土層

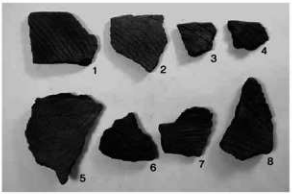
5．F8-1トレンチ遺構検出状況

6．E6-1トレンチ遺構検出状況

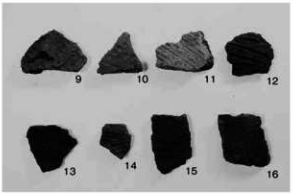
7．C8-1トレンチ遺構検出状況

8．I8-1トレンチ遺構検出状況

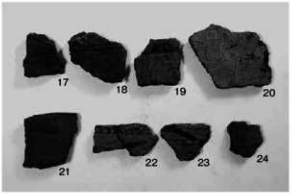
図版17　内野南遺跡ｉ地点（2）



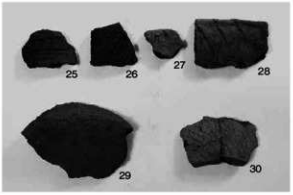
9．出土遺物



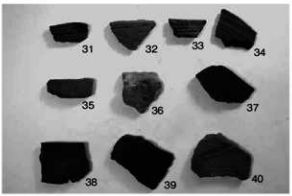
10．出土遺物



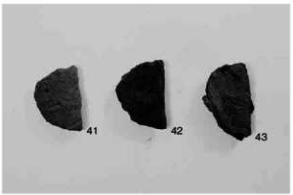
11．出土遺物



12．出土遺物

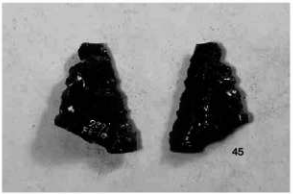


13．出土遺物



14．出土遺物

15．出土遺物



16．出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし　しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ　へいせい29ねんど
書　　名	千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成29年度
副 書 名	麦丸遺跡ｊ地点，雷遺跡ｄ地点，雷遺跡ｅ地点，雷遺跡ｆ地点，間見穴遺跡ｃ地点，浅間内遺跡ｂ地点， 白筋遺跡ｄ地点，菅地ノ台遺跡ｅ地点，逆水遺跡ｉ地点（２次），作山遺跡ｇ地点・作山塚群ｂ地点， 新林遺跡ｆ地点，新林遺跡ｇ地点，平戸台遺跡ｃ地点，殿内遺跡ｅ地点，殿内遺跡ｆ地点，内野南遺跡ｉ地点
編 著 者 名	秋山利光
編 集 機 関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138-2　Tel 047-483-1151（代表）・047-481-0304（直通）
発行年月日	西暦2018（平成30）年１月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡） 掘削/対象	調査原因
麦丸遺跡 ｊ地点	麦丸字金塚 1130-4,-5,1131-2,-4	12221	151	35度 44分 29秒	140度 6分 11秒	20160414～20160420	上層 128/1,211.54	宅地造成
雷遺跡 ｄ地点	保品字中台谷 1936-3の一部,1915-117	12221	106	35度 45分 28秒	140度 7分 33秒	20160425～20160502	上層 152/1,311.01	集合住宅 建設
雷遺跡 ｅ地点	米本字下宿東2538-48	12221	106	35度 43分 18秒	140度 7分 23秒	20161109～20161109	上層 45/700.47	集合住宅 建設
雷遺跡 ｆ地点	米本字下宿東2538-13	12221	106	35度 45分 19秒	140度 7分 27秒	20161110～20161110	上層 30/441.29	集合住宅 建設
間見穴遺跡 ｃ地点	島田台字菖蒲台 892-1の一部	12221	28	35度 46分 9秒	140度 6分 4秒	20160518～20160531	上層 224/2,370.11	託児施設兼 集合住宅 建設
浅間内遺跡 ｂ地点	村上南２丁目 22-20,-21及び 22-22,-10の各一部	12221	204	35度 43分 38秒	140度 6分 57秒	20160524～20160526	上層 40/380.68	集合住宅 建設
白筋遺跡 ｄ地点	村上字白筋2667の一部	12221	208	35度 43分 31秒	140度 7分 13秒	20170310～20170323	上層 194.76/ 1,615.69	宅地造成
菅地ノ台遺跡 ｅ地点	萱田字菅地台 439-1,-3の各一部	12221	179	35度 44分 27秒	140度 6分 31秒	20160701～20160708	上層 75/615.86	個人住宅 建設
逆水遺跡 ｉ地点（２次）	米本1280-1,-4	12221	100	35度 45分 42秒	140度 6分 53秒	20160711～20160715	上層　80/727	福祉施設 建設
作山遺跡 ｇ地点 作山塚群 ｂ地点	小池字作山407	12221	1 3	35度 46分 45秒	140度 5分 28秒	20160720～20160801	上層 173/1,750.09	福祉施設 建設
新林遺跡 ｆ地点	上高野字稲荷前 1166-5,-6,-8の各一部, 1166-7	12221	233	35度 43分 13秒	140度 7分 57秒	20160812～20160819	上層 178/2,647.34	宅地造成
新林遺跡 ｇ地点	上高野字新林 1198-1,-3の各一部	12221	233	35度 43分 12秒	140度 7分 49秒	20170220～20170223	上層 42/411.23	事務所併用 住戸，ワン ルーム住戸 建設
平戸台遺跡 ｃ地点	島田台字平戸台 937-1,-2及び-4の一部	12221	25	35度 46分 16秒	140度 6分 21秒	20160912～20160926	上層 375/3,439	集合住宅 建設

殿内遺跡（とのうちいせき） e 地点（ーてん）	村上字殿ノ内（むらかみあざとのうち） 1579-1,-8,-9,-10, 1578-2,-4	12221	203	35度 43分 45秒	140度 7分 3秒	20161005～20151014	上層 76/706.57	宅地造成
殿内遺跡（とのうちいせき） f 地点（えふてん）	村上字殿ノ内1572-1	12221	203	35度 43分 43秒	140度 7分 1秒	20161213～20161216	上層 42/300	宅地造成
内野 南 遺跡（うちのみなみいせき） i 地点（あいてん）	吉備字内野（よしびじうちの） 1058-2の一部, 1059-1,-3,-4,-5,-6, 1063-3,-4,-10	12221	289	35度 43分 56秒	140度 4分 29秒	20161219～20170112	上層 680/6,720	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
麦丸遺跡 j 地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	なし	
雷遺跡 d 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	中近世土坑３基	区域内からはなし 周囲表採　縄文土器（早）・土師器・須恵器	36㎡ 保存協議
雷遺跡 e 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	なし	なし	
雷遺跡 f 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	なし	なし	
間見穴遺跡 c 地点	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	なし	表採　土師器小片	
浅間内遺跡 b 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代 中近世	なし	なし	
白筋遺跡 d 地点	包蔵地	旧石器時代 奈良・平安時代	なし	土師器・須恵器小片	
菅地ノ台遺跡 e 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代	弥生時代後期竪穴建物跡１軒	なし	53㎡ 保存協議
逆水遺跡 i 地点第２次	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	なし	なし	
作山遺跡 g 地点 作山塚群 b 地点	包蔵地 塚	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	中近世塚２基	なし	375㎡ 保存協議
新林遺跡 f 地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	なし	
新林遺跡 g 地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	なし	
平戸台遺跡 c 地点	包蔵地	縄文時代	縄文時代中期土坑１基 近現代溝１条	縄文土器, 奈良・平安時代 土師器,須恵器	16㎡ 保存協議
殿内遺跡 e 地点	集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	奈良・平安時代 竪穴建物跡８軒 同時代掘立柱建物跡４棟	奈良・平安時代 土師器,須恵器	706.57㎡ 保存協議

殿内遺跡 f 地点	集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	奈良・平安時代 竪穴建物跡２軒.	奈良・平安時代 土師器,須恵器	65㎡ 保存協議
内野南遺跡 i 地点	包蔵地 集落跡	縄文時代 奈良時代	縄文時代前期竪穴建物跡７軒 縄文時代土坑７基	縄文土器（前～後期）, 石器	1,070㎡ 保存協議

要　約	1．麦丸遺跡j地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	2．雷遺跡 d 地点	中近世土坑３基が検出された。区域内からの出土遺物はない。周辺の表採で縄文土器（早期条痕文系）・土師器・須恵器・陶器。
	3．雷遺跡e地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	4．雷遺跡 f 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	5．間見穴遺跡 c 地点	遺構の検出はなかった。土師器小片が表採された。
	6．浅間内遺跡 b 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	7．白筋遺跡 d 地点	遺構の検出はなかった。土師器・須恵器小片が出土した。
	8．菅地ノ台遺跡 e 地点	弥生時代後期竪穴建物跡１軒が検出された。遺物の出土はなかった。
	9．逆水遺跡 i 地点第２次	遺構・遺物の検出はなかった。
	10. 作山遺跡 g 地点・ 作山塚群 b 地点	中近世塚２基が検出した。遺物の出土はなかった。
	11. 新林遺跡 f 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	12. 新林遺跡 g 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	13. 平戸台遺跡 c 地点	縄文時代中期土坑１基, 近現代溝１条検出された。 遺物は縄文土器, 奈良・平安時代 土師器, 須恵器が出土した。
	14. 殿内遺跡 e 地点	奈良・平安時代 竪穴建物跡８軒, 同時代掘立柱建物跡４棟が検出。 奈良・平安時代 土師器, 須恵器が出土した。
	15. 殿内遺跡 f 地点	奈良・平安時代 竪穴建物跡２軒が検出された。 奈良・平安時代 土師器, 須恵器が出土した。
	16. 内野南遺跡 i 地点	縄文時代前期竪穴建物跡７軒, 縄文時代土坑７基が検出された。縄文土器（前～後期）, 石器が出土した。

千葉県八千代市
市内遺跡発掘調査報告書　平成 29 年度

平成 30 年 1 月 31 日発行

編集・発行　八千代市教育委員会　教育総務課
千葉県八千代市大和田 138-2
047(483)1151(代表)　047(481)0304(直通)

印　　刷　金子印刷企画
千葉県八千代市萱田 410-1